

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月27日

【事業年度】 第75期(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

【会社名】 東鉄工業株式会社

【英訳名】 TOTETSU KOGYO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳下尚道

【本店の所在の場所】 東京都新宿区信濃町34番地

【電話番号】 03(5369)7698(代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画本部経理部長 岩淵英明

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区信濃町34番地

【電話番号】 03(5369)7687

【事務連絡者氏名】 経営企画本部経理部長 岩淵英明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
東鉄工業株式会社 横浜支店
(神奈川県横浜市西区平沼1丁目40番26号)
東鉄工業株式会社 千葉支店
(千葉県千葉市中央区弁天2丁目23番1号)
東鉄工業株式会社 埼玉支店
(埼玉県さいたま市大宮区桜木町4丁目247番地)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	109,388,049	116,106,118	126,807,837	130,634,639	131,209,245
経常利益 (千円)	8,873,797	9,581,385	12,749,687	13,668,410	13,301,499
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	5,312,841	6,533,862	8,518,586	9,583,025	9,982,340
包括利益 (千円)	5,847,706	8,795,773	8,005,035	9,863,457	10,601,856
純資産額 (千円)	49,590,066	57,137,604	62,960,546	70,341,994	78,127,562
総資産額 (千円)	91,645,974	101,961,629	114,156,766	122,320,699	127,839,116
1株当たり純資産額 (円)	1,369.49	1,582.14	1,754.68	1,979.28	2,218.19
1株当たり当期純利益 (円)	149.12	183.83	240.92	272.06	287.02
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	53.2	55.1	54.3	56.7	60.3
自己資本利益率 (%)	11.4	12.5	14.4	14.6	13.6
株価収益率 (倍)	12.8	14.6	14.4	11.7	11.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,505,963	3,470,013	2,123,722	3,587,733	2,667,197
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	697,459	444,540	801,047	1,565,575	1,417,917
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	844,212	1,141,075	2,199,000	2,494,716	2,818,850
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	16,822,166	18,706,564	17,830,238	17,357,680	15,788,110
従業員数 (人)	1,720	1,723	1,750	1,781	1,808
[外、平均臨時雇用人員]	[185]	[177]	[176]	[168]	[181]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	100,382,409	109,000,771	120,707,737	124,024,530	123,665,429
経常利益 (千円)	8,051,393	8,717,583	11,806,046	12,538,314	12,198,019
当期純利益 (千円)	4,908,991	6,004,679	7,945,711	8,883,290	9,304,966
資本金 (千円)	2,810,000	2,810,000	2,810,000	2,810,000	2,810,000
発行済株式総数 (株)	36,100,000	36,100,000	36,100,000	36,100,000	36,100,000
純資産額 (千円)	45,732,200	52,075,269	57,577,128	64,260,415	71,218,001
総資産額 (千円)	85,086,736	96,171,834	108,148,585	115,840,103	120,090,793
1株当たり純資産額 (円)	1,283.56	1,465.72	1,629.76	1,834.52	2,050.23
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額) (円)	24.00 ()	30.00 ()	40.00 (16.00)	48.00 (21.00)	58.00 (25.00)
1株当たり当期純利益 (円)	137.78	168.94	224.72	252.19	267.54
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	53.7	54.1	53.2	55.5	59.3
自己資本利益率 (%)	11.3	12.3	14.5	14.6	13.7
株価収益率 (倍)	13.9	15.9	15.4	12.7	12.2
配当性向 (%)	17.4	17.8	17.8	19.0	21.7
従業員数 [外、平均臨時雇用人員] (人)	1,557 [168]	1,555 [165]	1,583 [155]	1,616 [151]	1,646 [161]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については潜在株式がないため記載しておりません。

2 【沿革】

当社は、昭和18年7月、国鉄の輸送力確保のため、当時の鉄道省から要請され、関東地方の国鉄関係業者が集まり、東京都千代田区丸の内1丁目1番地に資本金150万円、東京鐵道工業株式会社の商号をもって設立いたしました。

当初は、新橋、上野、八王子、千葉、水戸、宇都宮、高崎に支店を置き、特命契約により鉄道工事を施工していましたが、昭和24年、国鉄の発注方法が指名競争入札制度に改められたため、一般建設業者として再発注いたしました。

その後の主な変遷は次のとおりであります。

昭和24年10月	建設業法により建設大臣登録(イ)第146号の登録を完了。(以後2年ごとに更新)
昭和25年7月	電気工事を事業目的に追加。
昭和25年8月	新橋、上野、八王子の3支店を統合し東京支店を設置。
昭和27年7月	商号を東鉄工業株式会社に変更。
昭和28年3月	本店を東京都千代田区神田仲町1丁目5番地に移転。
昭和33年10月	工事用資材の製造販売を事業目的に追加。
昭和37年11月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
昭和38年8月	本店を東京都新宿区市谷砂土原町2丁目7番地に移転。
昭和45年2月	砕石、砂利事業所、コンクリート工場を統合し建材事業部を設置。
昭和45年6月	仙台営業所を改め仙台支店を設置。
昭和45年8月	建築支店を設置。
昭和46年7月	不動産に関する業務を事業目的に追加。
昭和46年10月	宅地建物取引業法により東京都知事免許(1)第19956号を取得。(以後3年ごとに更新)
昭和47年6月	横浜支店を設置。
昭和47年10月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場。
昭和49年3月	建設業法の改正により建設大臣許可(特般 48)第3502号を取得。(以後3年ごとに更新)
昭和53年6月	大阪支店を設置。
昭和60年2月	子会社 株式会社トーコーリホーム(現 東鉄創建株式会社)(現 連結子会社)を設立。
昭和62年2月	静岡営業所を改め静岡支店を設置。
昭和62年9月	子会社 株式会社トーコーサービス千葉を設立。
平成元年9月	子会社 株式会社トーコー相模を設立。
平成2年8月	子会社 株式会社トーコーエステートを設立。
平成2年11月	大阪支店を廃止。
平成6年4月	仙台支店を東北支店に、静岡支店を東海支店にそれぞれ改称。
平成6年9月	子会社 株式会社トーコー大宮を設立。
平成9年4月	鉄道支店を設置。
平成12年6月	子会社 株式会社トーコー高崎を設立。
平成13年4月	東京支店と鉄道支店を統合し東京支店を設置。
平成13年4月	埼玉支店を設置。
平成13年10月	株式会社トーコーエステートを吸収合併。
平成13年11月	子会社 株式会社トーコー山の手(現 東鉄メンテナンス工事株式会社)(現 連結子会社)を設立。
平成14年4月	子会社 株式会社トーコーサービス千葉の商号を株式会社トーコー千葉に改称。
平成15年7月	建材事業部を開発事業部に改称。
平成15年7月	事業本部制を導入。管理本部、安全・品質・技術本部、線路本部、土木本部、建築本部の5本部を設置。
平成15年10月	三和機工株式会社(現 東鉄機工株式会社)(現 連結子会社)の全株式を取得し子会社化。
平成15年11月	東京支店を東京土木支店と東京線路支店に分割し、建築支店を東京建築支店に改称。
平成16年7月	八王子支店、新潟支店を設置、開発事業部を本社に統合し事業開発部に改称。
平成17年1月	本社を東京都新宿区信濃町34番地に移転。
平成17年6月	環境関連事業を事業目的に追加。
平成17年10月	東鉄機工株式会社、東鉄メンテナンス工事株式会社、東鉄創建株式会社の3社に子会社を再編。
平成18年1月	経営企画本部を設置。
平成18年6月	環境事業本部を設置。
平成19年4月	東海支店を営業所に組織改正。
平成19年12月	内部統制本部を設置、安全・品質・技術本部を安全・技術本部に改称。
平成20年4月	宇都宮支店を営業所に組織改正、東鉄研修センターの名称を東鉄技術学園に改称。
平成20年10月	鉄道安全推進本部を設置。
平成21年2月	子会社 株式会社国際重機整備を設立。

平成21年4月	環境事業本部を環境本部に改称。
平成23年6月	子会社 株式会社国際重機整備を清算。
平成24年9月	鉄道安全推進本部と安全・技術本部を統合し安全・技術推進本部を設置。
平成25年3月	興和化成株式会社（現 連結子会社）の一部株式を取得し子会社化。
平成25年4月	研究開発センターを設置。
平成28年2月	業務サポート本部を設置。
平成28年5月	新幹線大規模改修本部を設置。
平成30年6月	本部の再編。内部統制本部を内部統制室に、安全・技術推進本部を安全・品質本部に、新幹線大規模改修本部を土木本部内の部署へそれぞれ組織改正。 人材・技術開発本部を設置、東鉄技術学園を東鉄研修センターと改称し、人材・技術開発本部内の部署へ組織改正。また、研究開発センターを廃止し、人材・技術開発本部内の部署へ業務移管。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社4社で構成され、その他関連会社3社とともに、主として建設業に関連した事業を展開しております。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

（土木事業）

当社は総合建設業を営んでおり、土木事業は、土木工事全般に関する、企画、設計、施工、監理等の事業を行っております。施工する工事の一部を連結子会社である東鉄メンテナンス工事株式会社及び関連会社である株式会社ジェイテック、株式会社全溶に発注しております。なお、関連当事者である東日本旅客鉄道株式会社は主要な得意先であります。

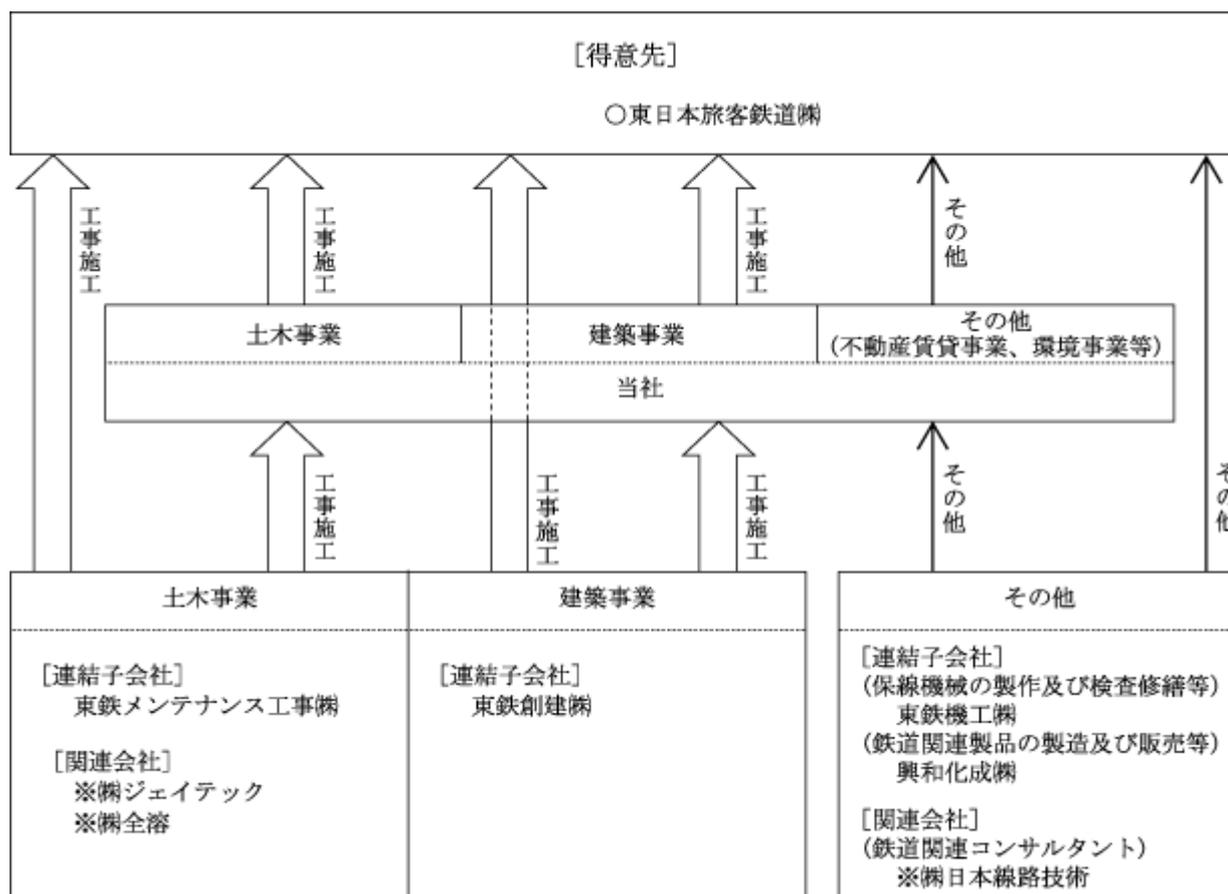
（建築事業）

当社は総合建設業を営んでおり、建築事業は、建築工事全般に関する、企画、設計、施工、監理等の事業を行っております。施工する工事の一部を連結子会社である東鉄創建株式会社に発注しております。なお、関連当事者である東日本旅客鉄道株式会社は主要な得意先であります。

（その他）

当社は、主に商業ビル等の賃貸事業及び発電事業・緑化事業・砕石リサイクル事業等の環境事業を営んでおります。また、連結子会社である東鉄機工株式会社は保線機械の製作及び検査修繕等の事業を営んでおり、興和化成株式会社は鉄道関連製品の製造及び販売等の事業を営んでおります。なお、関連会社である株式会社日本線路技術は鉄道関連コンサルタント事業を営んでおります。

以上に述べた事項の概略図は次のとおりであります。



※印は持分法適用会社
○印は関連当事者

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 東鉄機工(株)	東京都豊島区	20,000	その他 (保線機械の製作及 び検査修繕等)	100	当社のその他の事業において協 力しております。
東鉄メンテナンス工事(株)	東京都品川区	20,000	土木事業	100	当社の土木事業において施工協 力しております。
東鉄創建(株)	東京都千代田区	30,000	建築事業	100	当社の建築事業において施工協 力しております。
興和化成(株)	東京都東村山市	50,000	その他 (鉄道関連製品の製 造及び販売等)	64	当社のその他の事業において協 力しております。
(持分法適用関連会社) (株)ジェイテック	東京都千代田区	40,000	土木事業	20	当社の土木事業において施工協 力しております。
(株)全溶	東京都練馬区	100,000	土木事業	29	当社の土木事業において施工協 力しております。
(株)日本線路技術	東京都足立区	20,000	その他 (鉄道関連コンサル タント事業)	22	当社のその他の事業において協 力しております。

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
3 特定子会社に該当する会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
土木事業	1,296 [147]
建築事業	354 [17]
その他	99 [10]
全社(共通)	59 [7]
合計	1,808 [181]

- (注) 1 従業員数は当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であり、[]に、臨時従業員数(年間平均人員)を外数で記載しております。
2 臨時従業員には、契約社員を含み、派遣社員を除いております。
3 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)
1,646[161]	41歳 6ヶ月	13年 10ヶ月	8,473,184

セグメントの名称	従業員数(人)
土木事業	1,254[146]
建築事業	319[8]
その他	14[1]
全社(共通)	59[6]
合計	1,646[161]

- (注) 1 従業員数は当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であり、[]に、臨時従業員数(年間平均人員)を外数で記載しております。
2 臨時従業員には、契約社員を含み、派遣社員を除いております。
3 平均年齢、平均勤続年数には、他社から当社への出向者を含んでおりません。
4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
5 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の社員で構成される組合は東鉄工業労働組合と称し、昭和22年6月1日に結成され平成30年3月末現在の組合員数は1,128名であり、日本建設産業職員労働組合協議会に加盟しております。

労使関係は結成以来円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税抜きの金額で表示しております。

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

次年度のわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、引き続き緩やかな回復が続くものと期待される一方、海外経済における不確実性や、金融資本市場の変動の影響などに留意する必要があるものと思われま

す。建設業界を取り巻く環境は、東京オリンピック・パラリンピック関連投資などが引き続き期待されるものの、民間住宅投資、民間非住宅建設投資、政府建設投資ともに前年度比同水準となることを見込まれ、建設投資全体では横ばいとなることが予想されます。

一方、技能労働者不足や働き方改革への対応が喫緊の課題となるなかで、労務費・資機材価格の再高騰も懸念されるなど、引き続き厳しい経営環境が続くものと思われま

す。このような状況のなか、当社グループは平成30年度より、新しい3カ年中期経営計画である『東鉄 3D Power Up 2021』をスタートさせました。前中計の確かな成果を踏まえ、基本戦略である『3D戦略』を継続強化する一方、「クオリティ戦略(質)[Z軸]」においては、4つの重要テーマ(安全・品質向上、生産性向上/技術開発、働き方改革/人材育成、ESG(環境・社会・ガバナンス))についての「Power Up Project」を新たに開始するなど、将来の「堂々たる成長と飛躍」への「Jump」に備え、安全・品質・技術力・人材力・生産性・ESGなどにおける「基礎体力」を一段と強化させるための3年間と位置づけるとともに、ステークホルダーとの「共通価値の創造」を目指してまいります。

新たな中期経営計画(2018~2021)『東鉄 3D Power Up 2021』の要旨は、下記のとおりです。

『東鉄 3D Power Up 2021』基本方針

(1) 「3D戦略」の継続

- ・「基本戦略」である「3D戦略」(スリーディ戦略)を継続強化し、
- ・良好な事業環境を最大限活かし、「成長戦略」(軸×Y軸)により、受注力、キャッシュ創出力を一層強化するとともに、
- ・「クオリティ戦略」(Z軸)との「スパイラル相乗効果」を図ります。

(2) 「Power Up Project」を新たにスタート

- ・「クオリティ戦略」(Z軸)においては、将来の「Jump」に備え、Z軸を大幅に伸ばし、「基礎体力」を一段と強化するための3年間と位置づけ、「Power Up Project」を新たにスタートさせます。
- ・このプロジェクトを通して、ステークホルダーとの「共通価値の創造」を図ります。
- ・「追い風環境」の今だからこそ、創出キャッシュを有効に活用します。

(3) 「堂々たる成長と飛躍」(「Jump」)につなげる

- ・「Power Up Project」により伸ばしたZ軸を基に、さらなる「成長戦略」(軸×Y軸)の展開を図り、「堂々たる成長と飛躍」(「Jump」)につなげてまいります。

3カ年新中期経営計画(2018~2021)『東鉄 3D Power Up 2021』をスタート

「Power Up Project」

- ・「3D戦略」の「クオリティ戦略」(Z軸)において、特に重要な4つのテーマについて取り組みます。
- ・将来の「堂々たる成長と飛躍」(「Jump」)に備え、Z軸を大幅に伸ばし、安全・品質・技術力・人材力・生産性・ESGなどにおける「基礎体力」を一段と強化させます。
- ・このプロジェクトを通して、ステークホルダーとの「共通価値の創造」を図ります。
- ・事業活動により創出されたキャッシュを有効に活用し、各種施策・投資メニューを推進します。

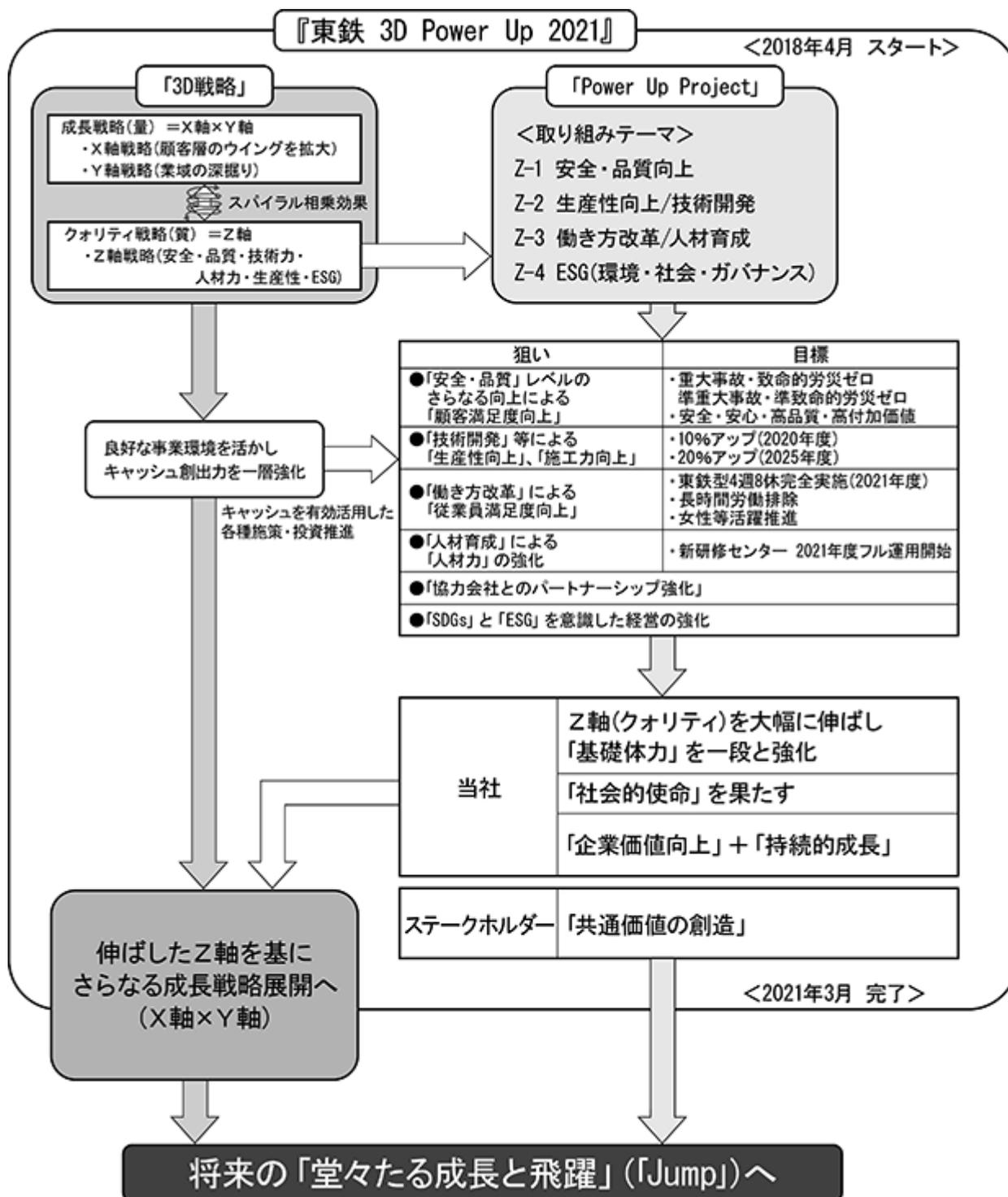
＜「Power Up Project」取り組みテーマ＞	
Z-1	安全・品質向上
Z-2	生産性向上 / 技術開発
Z-3	働き方改革 / 人材育成
Z-4	ESG(環境・社会・ガバナンス)

当 社	・安全・品質・技術力・人材力・生産性・ESGなどにおける「基礎体力」の強化
-----	---------------------------------------

＜ステークホルダーとの「共通価値の創造」＞	
お客様	・安全・安心で、高品質・高効率・低コストの施工
株 主	・安定的な株主還元
協力会社	・パートナーシップ強化 ・労働環境(休日確保等) / 支払条件改善 ・人材育成支援(採用/教育・訓練の強化)
従業員	・働き方の改善 / ワークライフバランス ・女性等活躍推進 ・現場4週8休の実現 / 長時間労働の排除 ・安心して働きやすい職場環境 / 福利厚生充実 ・効果的な教育・訓練項目による人材育成
地球環境	・地球環境保全 ・環境事業 ・SDGs

『東鉄 3D Power Up 2021』の「プロセス」と目指す「ゴール」

『東鉄 3D Power Up 2021』における「3D戦略」、「Power Up Project」の概要、及びその「プロセス」と目指す「ゴール」は以下のとおりです。



「3D戦略」と「Power Up Project」施策

<事業環境 / 事業機会・施策>

・鉄道関連工事・耐震・防災・維持・修繕工事などに強みを持つ当社にとって、
当社の特徴を特に活かすことができる事業環境、及び代表的な事業機会・施策は下記のとおりです。

事業環境		代表的な事業機会・施策
A	安全・安心ニーズの高まり	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な交通ネットワークを支える鉄道メンテナンス ・ホームドア整備・駅施設などのバリアフリー化 ・免震マンションなどをはじめとする安心安全な建築物
B	復旧・復興・防災・減災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災への対応 ・首都直下地震対策関連工事 ・降雨／暴風などの異常気象対策 ・土木・建築構造物の耐震補強工事
C	インフラ老朽化・長寿命化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線レール交換 ・新幹線鉄道大規模改修 ・鉄道、道路、橋りょう、高架橋、建築構造物などの補強・維持・更新
D	東京オリンピック・パラリンピック / インバウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会場周辺駅等の改良 ・首都圏ホテル建設活発化 ・暑熱・緑化対策
E	鉄道ネットワークの機能・利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・品川再開発プロジェクト(新駅・線路切替・街づくり) ・中央快速線等へのグリーン車サービスに伴う駅・線路改良 ・羽田空港アクセス線構想
Y	新しい展開 / 深掘りする新規事業	<ul style="list-style-type: none"> ・国土強靱化計画・地方創生 ・建築構造物の長寿命化、リノベーション、コンバージョン ・海外関連

<「成長戦略(軸×Y軸)」に関する施策>

・良好な事業環境を活かした各種施策を展開し、「成長戦略」に取り組みます。

軸戦略(横軸) = 「顧客層」のウイングを拡大	Y軸戦略(縦軸) = 「業域」の深掘りによる拡大
<ul style="list-style-type: none"> ・JR東日本関連業務に経営資源を重点投下した上で、 ・「土木 / 官公庁」「建築 / 民間一般」など、新たな顧客層のウイング拡大を図り、受注力を強化します。 <p>JR東日本関連業務 = 当社最大の強み・使命</p> <p>最大最重要顧客であるJR東日本からの受注・パートナーシップは当社の最大の強みであり、安全な工事の遂行は社会的使命。</p> <p>JR東日本関連業務に経営資源を継続的に重点投下し、徹底的に強化。</p> <p>顧客層のウイング拡大</p> <p>その上で、新たな顧客層のウイング拡大を図る「成長戦略」を継続展開。</p> <p>JR東日本以外の顧客からの受注力を、一層強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線路：私鉄・公共鉄道 ・土木：官公庁・私鉄 ・建築：民間一般・官公庁・私鉄 <p>提案型営業力強化・リピーター受注拡大</p> <p>提案型営業力を強化するとともに、過去に受注した顧客の新規・リニューアルニーズの掘り起こし、提案。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当社の「強み」である業務分野を徹底的に強化した上で、 ・関連業域の深掘り / 新しい成長機会に挑戦します。 <p>当社の強みである業務分野は徹底的に継続強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道関連工事 ・社会インフラ関連工事 ・防災・耐震・免震・老朽化関連・復興関連工事 ・住宅・非住宅建設工事 ・少子・高齢化関連工事 ・メンテナンス関連工事 ・環境関連工事 <p>その上で、関連業域の深掘りによる拡大強化 / 新しい成長機会に挑戦</p> <p>関連業務の業域拡大 / 提案力の強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線鉄道大規模改修及び新幹線レール交換 ・建築構造物の長寿命化、リノベーション、コンバージョンなど ・設計・施工の拡大 <p>新しい社会環境の変化、時代の要請に応じた業域の拡大。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック関連事業 ・国土強靱化計画・地方創生事業 ・省エネルギー、ZEB化、グリーンインフラ・雨水利用などの環境事業(SDGs、ESGを意識) ・海外関連事業

< 「クォリティ戦略(Z軸)」 / 「Power Up Project」に関する施策 >

- ・ 「質」を向上させることで、企業価値を高める「クォリティ戦略」においては、安全・品質・技術力・人材力・生産性・ESGなどにおける「基礎体力」を一段と強化するための「Power Up Project」を新たにスタートさせます。
- ・ 事業活動により創出されたキャッシュを有効に活用し、以下の4つの重要なテーマにおいて、それぞれの各種施策・投資を推進します。

「Power Up Project」取り組み施策
<p>Z-1「安全・品質向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「究極の安全と安心」の追求 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全・作業環境向上ツール開発・導入 ・ 鉄道用機械の開発・改良 ・ 大規模災害時のBCP対応投資 など ・ 「安全のPDCA」サイクル導入による安全レベルの向上 ・ 品質向上への取り組み強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種機械・ツール開発・導入 ・ 品質トラブルの再発防止、PDCAサイクルによる管理レベル向上
<p>Z-2「生産性向上/技術開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道工事を中心とした「東鉄型イノベーション」の推進 ・ 技術開発力の強化 ・ 施工力の強化 ・ 保線用機械メンテナンス体制の強化
<p>Z-3「働き方改革/人材育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現場業務負担軽減・総労働時間の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務支援ツール開発・導入 ・ 生産性向上のための業務改善 ・ 働き方改革 ・ 女性等活躍推進 ・ 協力会社との連携・支援強化 ・ 教育研修体制の再構築（新研修センター建設など ソフト・ハード両面） ・ 適正な工期設定、工事平準化等についての発注者への理解要請
<p>Z-4「ESG（環境・社会・ガバナンス）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「E」：環境への取り組み・「東鉄CO₂プロジェクト」の推進・強化 ・ 「S」：女性等活躍推進等の取り組み強化 ・ 「G」：「攻め(収益力/資本効率)」と「守り(リスク管理)」の両方を重視したコーポレートガバナンス経営の推進・強化

数値目標

以上の施策により、中期経営計画最終年度である2021年3月期には、下記の増収増益目標に挑戦いたします。なお、資本効率や株主還元目標は維持継続してまいります。

(連結)	2021年3月期(最終年度目標)
売上高	1,400億円
営業利益	140億円

ROE	10%以上
総還元性向	30% (DOEも意識した安定的な株主還元)

[参考]総還元性向の算出方法

$$n \text{ 年度の総還元性向}(\%) = \frac{(\text{n年度の年間配当金総額}) + (\text{n+1年度の自己株式取得額})}{\text{n年度の親会社株主に帰属する当期純利益}} \times 100$$

以上のとおり、新しい「中期経営計画(2018~2021)『東鉄 3D Power Up 2021』」におきましては、その基本方針、及び基本戦略である「3D戦略」に基づき、「成長戦略」によりキャッシュ創出力を一層強化する一方、このキャッシュを有効に活用し、新たにスタートする「Power Up Project」の各種施策・投資を推進することにより、当社の「基礎体力」を一段と強化し、「社会的使命」をしっかりと果たすとともに、「企業価値向上」と「持続的成長」、及びステークホルダーとの「共通価値の創造」を図ってまいります。

さらに、この「Power Up Project」により伸ばしたZ軸を基に、さらなる「成長戦略」(X軸×Y軸)の展開を図り、「堂々たる成長と飛躍」(「Jump」)につなげてまいります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成30年3月31日現在）において当社グループが判断したものであります。

(1) 経済状況

当社グループの事業活動は主として東日本地域を中心に行っており、この地域における景気の後退、回復遅延など景気変動に大きく影響を受けます。また、競合する他社との受注競争の激化などにより、低採算化、収益力の低下など、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 資材価格の高騰

当社グループは建設業を主としているため、鋼材等の原材料が急激に高騰し、請負代金に反映させることが困難な場合には、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 得意先との取引

当社グループは、売上高に占める鉄道部門のウェイトが高い状況となっており、この分野における売上高は、公共交通機関等当社グループが管理できない要因等により大きな影響を受ける可能性があります。

また、建築部門においては、住宅需要の変化などによる顧客企業の業績不振、予期しない契約の打ち切り、顧客の要求に応じるための値下げにより、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 工事事務による影響

当社グループは、工事施工にあたっては、事前に安全施工審査や事故予防措置などを講じ、また、施工時には安全パトロール等による実態の把握、点検・指導等を行い事故防止に努めております。しかしながら、事故が発生した場合にその原因によっては、指名停止などによる行政処分、損害賠償など、当社グループの信頼と信用を著しく失墜させる恐れがあり、業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 人材確保と育成

線路関係における施工技術は、従来、東日本旅客鉄道株式会社を母体として開発され、人材育成され、確保されてまいりました。しかし、近年、施工体制の変更などから、この人材確保は当社グループが主体となって行うこととなったことにより、優秀な人材の採用や教育・研修などによる人材育成にかかるコストの負担は、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 施工物等の不具合

当社グループでは、品質管理には万全を期しておりますが、万一、重大な瑕疵が発生し、その修復に多大な費用負担が生じた場合には、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 退職給付債務

当社グループの退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待運用収益率等に基づいて算出されております。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、将来期間において認識される費用及び債務に影響を及ぼし、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 法的規制等

建設業においては、建設業法、建築基準法、労働安全衛生法及び独占禁止法等により法的な規制を受けております。これらの法律の改廃、法的規制の新設、運用基準の変更等によっては、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 大規模災害等

当社グループは、今後想定される震災等の大規模災害への備えとして、BCPマニュアルを整備しております。しかし、地震・洪水・台風等の自然災害により事業活動の一時的な停止や施工中物件の復旧に多額の費用と時間を要する等により、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(業績等の概要)

(1) 業績

当期におけるわが国の経済は、個人消費が持ち直し、設備投資も緩やかに増加するなかで、企業収益や雇用情勢が着実に改善するなど、緩やかな回復基調が続きました。

建設業界におきましては、民間建設投資は、民間住宅投資において微増、民間非住宅建設投資も企業収益の改善等を背景とした設備投資などにより増加が見込まれ、また、政府建設投資も前年を上回る水準が予測されるなど、建設投資全体としては前年度比微増となる見通しです。

このような状況のなかで、当社グループにおきましては、3カ年中期経営計画(2015~2018)『東鉄 3D Step 2018』の最終年度にあたり、その基本方針、及び基本戦略である『3D戦略』(スリーディ戦略)に基づき、諸施策の推進を積極的に図ってまいりました。

「顧客層」のウイング拡大を図る《軸戦略》につきましては、最大最重要顧客である東日本旅客鉄道(株)からの受注工事の安全遂行を当社の社会的使命と捉え、経営資源を継続的に重点投下してまいりました。その最も重要なプロジェクトの一つである首都直下地震に備えた「耐震補強対策工事」では、これまで施工を進めてきた「御茶ノ水盛土・切土耐震補強」や駅舎等の「天井耐震化工事」など数々の工事に加え、さらに施工対象範囲を広げた工事も新たに開始されるなど、各種の耐震補強対策工事に継続的に取り組んでまいりました。また、「品川新駅プロジェクトに伴う軌道移設工事」、「常磐線梅戸橋こ線道路橋架替工事」、「青梅線東中神駅橋上化工事」や「新大久保駅バリアフリー化工事」をはじめとする駅舎改良工事など、様々な鉄道関連工事の安全施工に努めました。社会的な要請が益々高まっている「ホームドア」につきましては、山手線に続き、京浜東北線における設置工事が最盛期を迎えつつあり、さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック関連工事では、新国立競技場のメインゲート駅となる「千駄ヶ谷駅」、「信濃町駅」などの改良工事、また、インパウンド関連工事では、「ホテルメッツ秋葉原」、「ホテルメッツ五反田」などの施工を進めてまいりました。

多方面にわたる民間一般部門のお客様に対しては、「顧客層」のウイング拡大を図り、「地下鉄南北線王子車両基地分岐器改良工事(東京地下鉄(株))」、「東武野田線六実~逆井間複線化工事(東武鉄道(株))」、「相鉄本線西横浜駅リニューアル工事(相模鉄道(株))」、「東急田園都市線あざみ野駅高架下駐輪場新設工事(東京急行電鉄(株))」、「リーフィアレジデンス栗平新築工事(小田急不動産(株))」、「ジェイアールバス関東東京支店リニューアル工事(ジェイアールバス関東(株))」など、幅広い多数のお客様からの受注や施工を進めるとともに、当社が過去に施工させていただいたお客様からのリピーター受注も獲得いたしました。また、官公庁部門におきましても、当社初となる大型の公共建築工事である「高崎芸術劇場新築工事(群馬県高崎市)」をはじめ、「九州新幹線久山トンネル新設工事(鉄道・運輸機構)」、「大面川第二雨水幹線下水道整備工事(横浜市)」、「都電荒川線向原~東池袋四丁目間軌道移設工事(東京都交通局)」、「横浜市営地下鉄関内~吉野町間軌道改良工事(横浜市交通局)」など様々な受注・施工実績をあげることができました。

「業域」の深掘りを図る《Y軸戦略》につきましては、当社の強みである鉄道関連工事、防災・耐震・メンテナンス関連工事などの業務分野を徹底的に継続強化したうえで、お客様や社会の新しいニーズに応じた業務・業域の深掘りによる拡大強化を図り、新しい成長機会に挑戦してまいりました。本年度より本格稼働を開始した世界初の新幹線レール交換システム(通称[REXS])では、周辺機器の開発も並行して行いながら更なる効率化を図り、安全で高品質な施工を進めております。また、当社が設計から施工まで担当した「日本リーテック総合研修センター ゆめみ野学園新築工事(日本リーテック(株))」では、国内初となる、屋根をケーブルで支える先進的な構造を採用した大型研修施設にも取り組みました。

また、当社が強みとするメンテナンス技術を活かした施工では、「聖橋長寿命化工事(東京都財務局)」、「横浜市営地下鉄トンネル中柱補強工事(横浜市交通局)」、「富谷市まちづくり産業交流プラザ整備工事(宮城県富谷市)」、また、大震災復旧・復興関連では、「常磐線竜田~浪江間災害復旧工事(東日本旅客鉄道(株))」、「富岡~夜ノ森間富岡川橋りょう新設工事(同左)」、「富岡駅新築工事(同左)」、「気仙沼市南町海岸公共・公益施設新築工事(宮城県気仙沼市)」、「関上小塚原線道路改良工事(宮城県名取市)」など、新しい業域での受注・施工実績をあげることができました。

環境事業につきましては、当社施工部門との相互連携・シナジー強化を目的に「東鉄E C O₂プロジェクト」を積極的に推進中ではありますが、環境に配慮した駅の実現に向けた「エコステ」化工事においては、「小淵沢駅エコステ化工事（東日本旅客鉄道(株)）」、「武蔵溝ノ口駅エコステ化工事（同左）」を、緑化事業では、「横浜オフィスビル新築工事（東日本旅客鉄道(株)）」、「東神奈川オフィスビル新築工事（同左）」における「壁面緑化工事」の受注・施工を行うなど、多くの案件に取り組みました。また、工事現場の周辺環境との調和や近隣への環境配慮を目的に進めている「工事用仮囲い緑化」が、「藤代駅北口駅前広場整備工事（茨城県取手市）」などにおいて採用されるなど、当社の緑化技術が様々なシーンで広がりを見せています。さらには、国土交通省が主催した「東京オリンピック・パラリンピックに向けた「暑熱対策公開テスト」」に当社の壁面緑化技術が選定されるなど、高い評価を得ることができました。

『3D戦略』（スリーディ戦略）において、最も重要な戦略である《Z軸戦略》につきましては、「安全」「品質」「技術力」「企業力」の一層の強化を図る様々な取り組みを実施してまいりました。

「安全」においては、経営の最重要事項に掲げている「安全はすべてに優先する」という経営理念のもと、お客様・地域社会・従業員の「究極の安全と安心」を徹底的に追求し、「東鉄グループ方式」による的確な「作業毎のリスク把握」と、危険なポイントを「見える化」した安全ビジュアル教材（「要注カード」など）の徹底活用など、実効性のある教育・訓練を継続実施し、全社をあげて重大事故、致命的労働災害の防止に努めてまいりました。

「品質」においては、安全・安心や品質に対する社会的責任や要請が益々高まるなかで、「品質管理」「技術力」のたゆまざる維持・強化に努め、品質管理力強化のための「施工の見える化」、鉄道関連工事をはじめ様々な工事によって培ってきた専門的技術力の維持・向上・継承、研究開発力の強化、総合評価方式に対応する高度な技術力・提案力の強化などに取り組んでまいりました。

「施工力」につきましては、工事量の増大に対応するために、新卒・社会人採用の継続的強化を推進いたしました。協力会社との関係強化においては、技術力の育成支援をはじめ、宿舍の整備など福利厚生の向上に取り組むとともに、協力会社とその社員の方々をご紹介する「プロフェッショナル」誌の定期的な発行などを通して、パートナーシップの一層の強化を図りました。また、綿密な施工計画の徹底と様々な創意工夫、タブレット端末の活用促進や種々の技術開発などにより、施工や業務の効率化を図り、工期短縮にも努めてまいりました。

「企業力」においては、『東鉄 3D Step 2018』の基本方針である、「すべてのステークホルダーから信頼される誠実な経営」、「攻めと守りのバランスのとれたコーポレート・ガバナンスによる経営」に取り組んでまいりました。コーポレートガバナンス・コードにも積極的に対応し、複数の独立社外取締役体制、及び任意の諮問機関としての「経営諮問委員会」などにより、独立社外取締役の適切な関与・助言を得る運営を継続的に強化しております。また、「取締役会全体の実効性評価」や、「議決権の電子行使および招集通知の英訳」にも対応済みであり、さらに、資本効率や株主還元の一層の充実を図るべく、ROE・総還元性向を目標化し、中間配当も継続的に実施しております。

また、適正な勤務管理やメンタルヘルスケアの推進など、労働環境の一層の改善に取り組むとともに、福利厚生制度や各種手当の充実など、従業員満足度の向上にも注力してまいりました。コンプライアンス、リスク管理体制については、実効性の高いコンプライアンス研修を定期的実施するなど、さらなる強化を図るとともに、IR活動においては、継続的に適時適切な情報開示に努め、CSR報告書についても内容の一層の充実化を図るなど、「誠実な経営」の推進に取り組まれました。

また、当社では、「生産性向上（技術開発、働き方改革等）」や「人材活用（女性等活躍推進、協力会社関係強化、教育研修等）」、「受注力強化」など、新しい社会環境の変化に応じて対応すべき重要な経営課題につき、全社横断的なプロジェクトチームを組成し、その提言を、新中期経営計画の各種施策に活かすべく、活発な検討を展開してまいりました。

以上のとおり、中期経営計画（2015～2018）『東鉄 3D Step 2018』におきましては、各分野において様々な施策に積極的に取り組んでまいりました。

当社グループは、『3D戦略』(スリーディ戦略)の推進により上記諸施策を着実に実施した結果、当期の業績につきましては、受注高は、官公庁の一般工事が前期受注の大型工事の影響により減少したものの、官公庁の鉄道工事や民間一般など幅広いお客様からの受注も順調に増加したことから、微減ながら過去2番目となる126,717百万円(前期比350百万円減少)の高い水準を確保することができました。

売上高は、前期からの繰越工事高が高水準でスタートしたことや、工事の進捗も順調に進んだことに加え、付帯事業の増加も寄与し、131,209百万円(前期比574百万円増加)と、増収かつ過去最高を更新しました。

利益につきましては、利益率・額が相対的に低い工事が一部にあったことなどから、売上総利益は19,785百万円(前期比299百万円減少)、営業利益は13,002百万円(前期比369百万円減少)、経常利益は13,301百万円(前期比366百万円減少)と、減益とはなりませんが、いずれも過去2番目の実績となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、税金費用の減少等もあり9,982百万円(前期比399百万円増加)と、増益かつ過去最高益を更新しました。

なお、中期経営計画(2015~2018)『東鉄 3D Step 2018』の最終年度(平成30年3月期)の数値目標のうち、「売上高1,350億円」につきましては、上記のとおり、当期売上高は過去最高を更新したものの未達となりましたが、「営業利益130億円以上」は2年連続して達成し、また、「ROE10%以上」についても13.6%と、3年連続して達成することができました。

セグメントの業績は、次のとおりです。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

(土木事業)

受注高は86,293百万円(前期比3.5%増)、売上高は86,702百万円(前期比2.6%減)となりました。

売上高のうち工事進行基準による計上額は51,337百万円であり、次期繰越高は45,020百万円となりました。

セグメント利益は7,848百万円(前期比8.7%減)となりました。

(建築事業)

受注高は40,423百万円(前期比7.5%減)、売上高は37,210百万円(前期比6.0%増)となりました。

売上高のうち工事進行基準による計上額は27,029百万円であり、次期繰越高は30,648百万円となりました。

セグメント利益は4,339百万円(前期比8.7%増)となりました。

(その他)

売上高は7,296百万円(前期比11.9%増)で、その主なものは鉄道関連製品の製造及び販売収入であります。

セグメント利益は798百万円(前期比3.6%増)となりました。

財政状態の状況は、次のとおりです。

当期末の資産合計は前期比5,518百万円増加し127,839百万円となりました。主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等の増加であります。

負債合計は、前期比2,267百万円減少し49,711百万円となりました。主な要因は、支払手形・工事未払金等の減少であります。

その結果、純資産合計は前期比7,785百万円増加し78,127百万円となりました。また、自己資本比率は、前期末の56.7%から60.3%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当期末における現金及び現金同等物は、前期比1,569百万円減少し15,788百万円となりました。当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

売上債権の増加による収入の減少等により、営業活動におけるキャッシュ・フローは前期比920百万円収入が減少し2,667百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出の減少等により、投資活動におけるキャッシュ・フローは前期比147百万円支出が減少し1,417百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払額の増加等により、財務活動におけるキャッシュ・フローは前期比324百万円支出が増加し2,818百万円の支出となりました。

(生産、受注及び販売の状況)

(1) 受注実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) (百万円)
土木事業	83,359	86,293 (3.5%)
建築事業	43,707	40,423 (7.5%)
合計	127,067	126,717 (0.3%)

(2) 売上実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) (百万円)
土木事業	89,006	86,702 (2.6%)
建築事業	35,107	37,210 (6.0%)
報告セグメント 計	124,113	123,912 (0.2%)
その他	6,520	7,296 (11.9%)
合計	130,634	131,209 (0.4%)

- (注) 1 セグメント間の受注・取引については相殺消去しております。
2 当社グループでは生産実績を定義することが困難であるため「生産の状況」は記載しておりません。
3 売上高総額に対する割合が100分の10以上の相手先別の売上高及びその割合は次のとおりであります。

相手先		前連結会計年度		当連結会計年度	
		金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
土木事業	東日本旅客鉄道株	80,919	61.9	77,276	58.9
建築事業	東日本旅客鉄道株	19,035	14.6	22,834	17.4

なお、参考のため提出会社個別の事業の状況は次のとおりであります。

建設事業における受注工事高及び完成工事高の状況

受注工事高、完成工事高及び次期繰越工事高

期別	区分	前期繰越 工事高 (百万円)	当期受注 工事高 (百万円)	計 (百万円)	当期完成 工事高 (百万円)	次期繰越 工事高 (百万円)
前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	土木工事	51,065	83,030	134,095	88,669	45,426
	建築工事	18,353	41,860	60,213	33,251	26,961
	計	69,418	124,890	194,308	121,920	72,388
当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	土木工事	45,426	85,889	131,316	86,298	45,017
	建築工事	26,961	38,270	65,232	35,071	30,161
	計	72,388	124,159	196,548	121,369	75,178

- (注) 1 前期以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額の増減がある場合は、当期受注工事高にその増減額が含まれております。したがって、当期完成工事高にもかかる増減額が含まれております。
2 次期繰越工事高は(前期繰越工事高 + 当期受注工事高 - 当期完成工事高)であります。

受注工事高の受注方法別比率

工事受注方法は、特命と競争に大別しております。

期別	区分	特命(%)	競争(%)	計(%)
前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	土木工事	79.4	20.6	100
	建築工事	41.9	58.1	100
当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	土木工事	76.6	23.4	100
	建築工事	34.6	65.4	100

- (注) 百分比は請負金額比であります。

完成工事高

期別	区分	官公庁 (百万円)	民間 (百万円)	計 (百万円)
前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	土木工事	6,450	82,219	88,669
	建築工事	913	32,337	33,251
	計	7,363	114,556	121,920
当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	土木工事	7,775	78,523	86,298
	建築工事	1,941	33,129	35,071
	計	9,717	111,652	121,369

(注) 1 完成工事のうち主なものは、次のとおりであります。

前事業年度

東日本旅客鉄道(株)	東北線外利用高架橋その他耐震補強工事 2 0 1 5
梶原工業(株)	梶原工業株式会社新工場新築工事
ナイスエスト(株)・大栄不動産(株)・ 三信住建(株)・京急不動産(株)共同企業体	(仮称)JV藤沢川名計画新築工事
(株)大京	(仮称)綾瀬三丁目新築工事
JR東京西駅ビル開発(株)	セレオ八王子北館 特別高圧受変電設備他更新工事

当事業年度

小田急不動産(株)	リーフィアレジデンス栗平 新築工事
東日本旅客鉄道(株)	東北線外利用高架橋その他耐震補強工事 2 0 1 6
東日本旅客鉄道(株)	東中神駅橋上本屋ほか新築その他(その2・躯体仕上)工事
(株)ジェイアール東日本都市開発	中央線三鷹駅南口ビル新築工事
東日本旅客鉄道(株)	宇都宮駅新幹線上り乗降場上家屋根改良その他工事

2 完成工事高総額に対する割合が100分の10以上の相手先別の完成工事高及びその割合は、次のとおりであります。

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)			当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)		
相手先	金額 (百万円)	割合(%)	相手先	金額 (百万円)	割合(%)
東日本旅客鉄道(株)	99,831	81.9	東日本旅客鉄道(株)	99,717	82.2

次期繰越工事高(平成30年3月31日現在)

区分	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
土木工事	9,411	35,606	45,017
建築工事	4,312	25,848	30,161
計	13,723	61,454	75,178

(注) 次期繰越工事のうち主なものは、次のとおりであります。

群馬県 高崎市	高崎芸術劇場建設工事	平成31年3月完成予定
東日本旅客鉄道(株)	宇都宮・那須塩原間第3岩曽高架橋外橋脚補強その他工事	平成34年3月完成予定
東日本旅客鉄道(株)	山梨市駅橋上本屋ほか新築その他工事	平成33年3月完成予定
ジェイアールバス関東(株)	東京支店事務所新築その他工事	平成32年2月完成予定
東日本旅客鉄道(株)	東北線外利用高架橋その他耐震補強工事その3	平成31年3月完成予定

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されておりますが、この連結財務諸表の作成にあたっては過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる見積りが会計基準の一定の範囲内で行われており、連結決算日における資産・負債や収益・費用の数値に反映されております。これらの見積りには不確実性が伴い実際の結果とは異なる場合があるため、連結財務諸表に影響を及ぼすものと考えられます。

(2) 財政状態の分析

((業績等の概要) (1)業績 に記載しております。)

(3) 経営成績の分析

((業績等の概要) (1)業績 に記載しております。)

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

(2 事業等のリスク に記載しております。)

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

((業績等の概要) (2)キャッシュ・フローの状況 に記載しております。)

(6) 経営者の問題意識と今後の方針について

(1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 に記載しております。)

4 【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

5 【研究開発活動】

当期において、当社グループが支出した研究開発費の総額は98百万円であります。

なお、セグメントごとの主な研究開発活動は次のとおりであります。

(土木事業)

当期における研究開発費の金額は91百万円であります。

夜間作業で高架橋の防音壁修繕工事の削孔・締付する作業において、防音パネル・防音シートで隙間や空間が生じること、吸音式でないことなどのため騒音による作業中止等が発生する可能性があることから、防音パネル・防音シートの隙間の解消及び吸音式機能の付加等、防音対策の開発を行いました。

レール溶接に係る時間短縮を図ることを目的として、ミストを利用してレールを冷却する装置を開発しました。溶接後レールが高温状態では作業ができませんが、この装置により作業が再開できるレール温度300 までの冷却時間を従来の1/3以下の8分とすることに成功しました。

高架橋上の作業に用いる資機材を搬入するとき、保守用階段を使って人力で運搬していましたが、人力に頼ることなく容易に搬入できる機械を開発しました。これにより、約100kgの資機材を一回で運ぶことができ、人力の2倍以上の運搬能力を有しています。

(建築事業)

当期における研究開発費の金額は0.4百万円であります。

線路間を横断して資材等を運搬する際に、短絡を兼ねた防災シートを敷き、線路を養生しておりますが、夜間、照明が充分行き届かない箇所や、資材を担ぎ足元を見ながら運搬するため、レール部の段差により躓くりリスクがあります。安全性向上につなげるため、この段差等を視覚的に認識可能な養生材の開発を行いました。

(その他)

当期における研究開発費の金額は6百万円であります。

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たな暑熱対策が求められています。これまでの研究で、日射を遮ること、ミストによる蒸散効果、風による冷却等の技術が有効であることを確認しました。これらの技術を組み合わせた暑熱対策技術の開発を実施しました。

仮囲い緑化に本社PCやタブレット端末上から遠隔操作により土壌水分率の制御、灌水停止等のトラブル察知、対応の遅れによる植栽枯れ等の課題の解決など保守管理に大きな力を発揮する新たな緑化管理技術として、IoTによる遠隔制御システムを導入しました。

鉄道関連製品の製造・販売をしていますが、鉄道会社に向けた鉄道関連製品の試験及び開発を行っています。

第3 【設備の状況】

「第3 設備の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示しております。

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は2,000百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

(土木事業)

当連結会計年度において、工事用運搬車両の取得を中心とする総額1,758百万円の設備投資を実施いたしました。

(建築事業)

当連結会計年度において、重要な設備投資は行っておりません。

(その他)

当連結会計年度において、重要な設備投資は行っておりません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械、運搬 具及び 工具器具 備品	土地		リース 資産	合計	
				面積(m ²)	金額			
本社 (東京都新宿区)	土木事業 建築事業 その他	1,211	1,249	55,101 (7,982)	158	-	2,618	196
東京土木支店・東京線路支店・ 東京建築支店 (東京都豊島区)	"	452	93	4,456 (365)	1,004	0	1,550	377
八王子支店 (東京都八王子市)	"	41	130	- (-)	-	-	172	125
横浜支店 (神奈川県横浜市西区)	"	149	118	1,609 (2,136)	12	0	281	189
千葉支店 (千葉県千葉市中央区)	"	146	57	2,330 (685)	1	-	206	134
水戸支店 (茨城県水戸市)	"	223	39	2,711 (1,556)	63	-	326	182
埼玉支店 (埼玉県さいたま市大宮区)	"	480	467	6,714 (281)	153	-	1,101	204
東北支店 (宮城県仙台市青葉区)	"	0	2	- (-)	-	-	2	42
高崎支店 (群馬県高崎市)	"	317	39	2,592 (5,728)	1	0	359	114
新潟支店 (新潟県新潟市中央区)	土木事業 その他	17	113	- (-)	-	-	130	83

- (注) 1 帳簿価額に建設仮勘定は含んでおりません。
2 土地及び建物の一部を連結会社以外から賃借しております。賃借料は333百万円であり、土地の面積については、()内に外書きで示しております。
3 土地建物のうち賃貸中の主なものは、下記のとおりであります。

事業所名	セグメントの名称	土地(m ²)	建物(m ²)
本社	その他	22,926	21,870

- 4 リース契約による賃借設備のうち主なものは、下記のとおりであります。

事業所名	セグメントの名称	設備の内容	年間 リース料 (百万円)	リース 契約残高 (百万円)	備考
本社及び支店	土木事業	工事用車両	45	27	所有権移転外 ファイナンス・リース
"	"	"	1,714	4,456	オペレーティング・リース

(2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械、運搬 具及び 工具器具 備品	土地		リース 資産		合計
					面積(m ²)	金額			
東鉄機工(株)	本社等 (東京都 豊島区他)	その他	0	4	-	-	-	4	31
東鉄メンテナ ンス工事(株)	本社 (東京都 品川区)	土木事業	11	2	-	-	-	13	21
東鉄創建(株)	本社等 (東京都 千代田区他)	建築事業	20	1	-	-	-	21	37
興和化成(株)	本社等 (東京都 東村山市他)	その他	233	114	7,168	156	-	503	73

(注) 帳簿価額に建設仮勘定は含んでおりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(土木事業)

(1) 重要な設備の新設等

会社名 事業所名 (所在地)	内容	投資予定金額 (百万円)		資金調達方法	備考
		総額	既支払額		
提出会社 本社 (東京都新宿区)	レール削正車	2,338	209	自己資金	平成31年3月までに取得
"	除雪用軌道モーターカー	125	-	自己資金	平成31年3月までに取得
"	軌道モーターカー	54	-	自己資金	平成31年3月までに取得
"	軌道モーターカー	54	-	自己資金	平成31年3月までに取得
"	軌道モーターカー	52	-	自己資金	平成31年3月までに取得

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

(建築事業)

重要な設備の新設及び除却等の計画はありません。

(その他)

重要な設備の新設及び除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	138,900,000
計	138,900,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	36,100,000	36,100,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株でありま す。
計	36,100,000	36,100,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成13年9月28日(注)	600,000	36,100,000		2,810,000	115,200	2,264,004

(注) 資本準備金による自己株式の消却であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		46	24	90	147	1	3,888	4,196	
所有株式数(単元)		127,916	2,289	89,351	65,245	1	75,999	360,801	19,900
所有株式数の割合(%)		35.45	0.63	24.76	18.08	0.00	21.06	100.00	

- (注) 1 自己株式1,363,356株は「個人その他」に13,633単元、及び「単元未満株式の状況」に56株を含めて記載しております。
2 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が20単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
東日本旅客鉄道株式会社	東京都渋谷区代々木2丁目2-2	3,659	10.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,082	6.00
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,855	5.34
MISAKI ENGAGEMENT MASTER FUND (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	OGIER FIDUCIARY SERVICES CAYMAN ISLAND LIMITED, 89 NEXUS WAY, CAMANA BAY, GRAND CAYMAN KY1 9007, CAYMAN ISLAND (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,133	3.26
日本電設工業株式会社	東京都台東区池之端1丁目2-23	1,088	3.13
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	789	2.27
株式会社常陽銀行	茨城県水戸市南町2丁目5番5号	777	2.24
鉄建建設株式会社	東京都千代田区神田三崎町2丁目5-3	770	2.22
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	731	2.10
東鉄工業社員持株会	東京都新宿区信濃町34JR信濃町ビル4階	693	2.00
計		13,579	39.09

- (注) 1 上記のほか、当社所有の自己株式が1,363千株あり、発行済株式総数に対する割合は3.78%であります。
2 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)は、信託業務に係る株式です。
3 前事業年度末現在主要株主であったBBH FOR MATTHEWS JAPAN FUNDは、当事業年度末では主要株主ではなくなり、MISAKI ENGAGEMENT MASTER FUNDが新たに主要株主となりました。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,363,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,716,800	347,168	
単元未満株式	普通株式 19,900		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	36,100,000		
総株主の議決権		347,168	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権20個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式56株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 東鉄工業株式会社	東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル4階	1,363,300		1,363,300	3.78
計		1,363,300		1,363,300	3.78

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年5月11日)での決議状況 (取得期間 平成29年5月17日～平成29年5月31日)	300,000	1,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	291,600	999,879,500
残存決議株式の総数及び価額の総額	8,400	120,500
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	2.80	0.01
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	2.80	0.01

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成30年5月10日)での決議状況 (取得期間 平成30年5月16日～平成30年6月1日)	350,000	1,100,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式	311,000	1,099,961,500
提出日現在の未行使割合(%)	11.14	0.00

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	137	468,690
当期間における取得自己株式	64	201,920

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の買増請求に よる売渡し)				
保有自己株式数	1,363,356		1,674,420	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増請求による売渡しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、安定的な配当を継続するとともに、株主資本の充実や設備投資に備えた内部留保を行いつつ、収益に対応した配当を行うことを基本方針としております。

この方針に基づき、期末配当金につきましては、1株当たり25円を予定しておりましたが、当社グループの当期の業績や今後の事業展開を総合的に勘案し、株主の皆様のご支援にお応えするため、1株当たりの期末配当金を8円増配し33円とさせていただくこととしました。これにより、中間配当金25円と合わせた当期の年間配当金は1株当たり58円となり、前期配当金に比べ10円の増配となります。

なお、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

これにより当社の剰余金の配当は、毎年9月30日を基準日とした中間配当及び3月31日を基準日とした期末配当の年2回行うことを基本方針とし、配当の決定機関は中間配当については取締役会、期末配当については株主総会としております。

当事業年度の剰余金の配当は次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たりの配当額(円)
平成29年11月8日 取締役会決議	868,417	25
平成30年6月26日 定時株主総会決議	1,146,309	33

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	2,300	2,863	3,540	3,495	3,905
最低(円)	1,394	1,769	2,370	2,436	3,005

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	3,805	3,905	3,820	3,810	3,650	3,615
最低(円)	3,500	3,475	3,630	3,535	3,040	3,165

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性12名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	執行役員 社長	柳 下 尚 道	昭和30年12月6日生	昭和54年4月 日本国有鉄道入社 昭和62年4月 東日本旅客鉄道株式会社入社 東京圏運行本部大船保線区長 平成3年4月 盛岡支社総務部人事課長 平成5年12月 総合企画本部経営管理部調査役 平成8年2月 新潟支社工務部長 平成15年1月 鉄道事業本部設備部企画環境課長 平成15年4月 鉄道事業本部設備部次長 (企画環境) 平成19年6月 鉄道事業本部安全対策部長 平成20年6月 取締役鉄道事業本部設備部長 当社取締役就任 (平成22年6月まで) 平成22年6月 東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役鉄道事業本部 副本部長 代表取締役副社長 平成26年6月 当社入社 平成28年6月 代表取締役社長、 執行役員社長(現任)	(注)3	3,000
取締役	専務 執行役員 経営企画 本部長	宮 本 潤 二	昭和26年6月27日生	昭和49年4月 株式会社富士銀行入行 平成元年5月 同行資金証券企画部次長 平成4年4月 富士銀投資顧問株式会社出向 企画部長 平成6年11月 株式会社富士銀行ロンドン支店 副支店長 平成10年5月 富士インターナショナルファイナ ンス(ロンドン)出向 社長 平成13年5月 株式会社富士銀行営業第二部長 平成14年4月 株式会社みずほコーポレート銀行 大手町営業第四部長 平成15年4月 株式会社みずほ銀行審議役 (当社出向) 当社企画部付部長 経営統括室長 平成15年6月 当社入社 執行役員経営統括室長 平成16年7月 執行役員経営企画本部 平成18年1月 経営企画部長 平成18年6月 取締役常務執行役員 経営企画本部長 平成25年6月 取締役専務執行役員 経営企画本部長 (現任)	(注)3	23,300

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	専務 執行役員 線路本部 長、 安全・品質 本部担当	伊藤 長市	昭和25年3月14日生	昭和47年4月 昭和62年4月 平成15年6月 平成18年6月 平成18年6月 平成19年4月 平成20年10月 平成21年4月 平成23年6月 平成29年6月 平成30年6月	日本国有鉄道入社 東日本旅客鉄道株式会社入社 大宮支社設備部長 大宮支社（当社出向） 当社八王子支店副支店長 執行役員八王子支店長 当社入社 執行役員八王子支店長 執行役員鉄道安全推進本部長 執行役員鉄道安全推進本部長、 安全・技術本部長 取締役常務執行役員 線路本部長 取締役専務執行役員 線路本部長、 安全・技術推進本部担当 取締役専務執行役員 線路本部長、 安全・品質本部担当（現任）	(注)3	19,500
取締役	常務 執行役員 管理本部 長、 業務サポ ート本部担 当、 人材・技術 開発本部担 当	小池 仁	昭和28年3月3日生	昭和52年4月 平成12年4月 平成13年4月 平成15年6月 平成16年7月 平成18年6月 平成19年12月 平成20年10月 平成25年11月 平成27年6月 平成29年6月 平成30年6月	当社入社 本社鉄道本部線路部担当部長、 安全部担当部長 埼玉支店線路部長、工事課長 埼玉支店長、安全部長 執行役員東京線路支店長 執行役員高崎支店長 執行役員管理本部副本部長、 総務部長 執行役員線路本部副本部長 執行役員線路本部副本部長、 線路技術部長 取締役執行役員管理本部長 取締役常務執行役員 管理本部長、 業務サポート本部担当 取締役常務執行役員 管理本部長、 業務サポート本部担当、 人材・技術開発本部担当（現任）	(注)3	18,000
取締役	常務執行役 員土木本部 長	須賀 克巳	昭和28年8月28日生	昭和52年4月 平成15年6月 平成15年11月 平成17年5月 平成18年6月 平成19年12月 平成25年3月 平成28年6月 平成29年6月 平成30年6月	当社入社 東京支店土木部長、土木積算部長 土木本部土木部長 株式会社トーコー山の手（現 東 鉄メンテナンス工事株式会社） 代表取締役社長 執行役員千葉支店長 執行役員高崎支店長 常務執行役員東京土木支店御茶ノ 水防災JV工務所統括所長 常務執行役員土木本部副本部長、 土木エンジニアリング部長 取締役常務執行役員 土木本部長、 新幹線大規模改修本部担当 取締役常務執行役員 土木本部長（現任）	(注)3	8,500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	執行役員 建築本部 長、環境本 部担当	小 柏 英 雄	昭和29年1月30日生	昭和47年4月 平成15年7月 平成17年1月 平成18年4月 平成19年7月 平成23年6月 平成25年6月 平成29年6月	当社入社 高崎支店建築部担当部長 東京建築支店工事部担当部長 東京建築支店建築部担当部長 埼玉支店建築部長 建築本部建築企画部長 執行役員建築本部副本部長、 建築企画部長 取締役執行役員 建築本部長、 環境本部担当（現任）	(注)3	7,600
取締役 (非常勤)		関 根 攻	昭和17年6月14日生	昭和44年4月 昭和49年5月 昭和49年6月 昭和62年1月 平成12年1月 平成20年1月 平成20年6月 平成25年4月	弁護士登録 米Harvard Law School LL.M.修了 Lovejoy, Wasson, Lundgren&Ashton (New York)勤務 常松・築瀬・関根法律事務所設立 長島・大野法律事務所との合併に 伴い、長島・大野・常松法律事務 所パートナー 長島・大野・常松法律事務所顧問 (平成24年12月まで) 当社取締役（現任） 青山綜合法律事務所顧問（現任）	(注)3	
取締役 (非常勤)		未 綱 隆	昭和24年3月8日生	昭和49年4月 平成6年2月 平成9年9月 平成13年9月 平成14年8月 平成16年8月 平成17年9月 平成21年4月 平成24年6月 平成27年6月	警察庁入庁 高知県警察本部長 警察庁長官官房会計課長 警察庁長官官房首席監察官 神奈川県警察本部長 警視庁副總監 宮内庁東宮侍從長 特命全權大使 ルクセンブルク国駐箚 同上退官 当社取締役（現任）	(注)3	
取締役 (非常勤)		中 西 雅 明	昭和39年3月19日生	平成元年4月 平成15年2月 平成16年3月 平成18年6月 平成20年6月 平成22年6月 平成24年1月 平成26年6月 平成28年6月 平成30年6月 平成30年6月	東日本旅客鉄道株式会社入社 八王子支社設備部保線課長 高崎支社設備部企画課長 東京支社施設部保線課長 鉄道事業本部設備部（企画・新 幹線・環境保全）課長 財務部（資材）次長 横浜支社設備部長 東京支社施設部長 鉄道事業本部設備部担当部長 執行役員鉄道事業本部設備部長 (現任) 当社取締役（現任）	(注)3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
常勤監査役		西川 寛	昭和27年4月21日生	昭和51年4月 昭和62年4月 平成6年4月 平成8年6月 平成15年3月 平成19年6月 平成21年6月 平成24年6月 平成25年6月 平成27年6月 平成28年6月	日本国有鉄道入社 東日本旅客鉄道株式会社入社 長野支社工務部長 東京工事事務所次長 東北工事事務所長 鉄建建設株式会社入社 執行役員土木本部副本部長（鉄道担当）、エンジニアリング本部担当 取締役執行役員鉄道統括室担当、土木本部担当 当社入社 執行役員環境本部長 取締役執行役員環境本部長 常務執行役員環境本部長 常勤監査役（現任）	(注)4	5,000
常勤監査役		栗原 政義	昭和32年1月5日生	昭和54年4月 平成12年10月 平成16年7月 平成17年10月 平成19年4月 平成25年6月	鉄建建設株式会社入社 東京支店総務部会計グループリーダー 東関東支店総務部長 東京支店総務部長 東京鉄道支店総務部長 当社常勤監査役（現任）	(注)5	1,700
監査役		松井 巖	昭和28年12月13日生	昭和55年4月 平成2年4月 平成17年1月 平成22年10月 平成24年6月 平成26年1月 平成27年1月 平成28年11月 平成30年6月	東京地方検察庁検事 東京地方検察庁検事（特捜部） 東京地方検察庁特別公判部長 大阪高等検察庁次席検事 最高検察庁刑事部長 横浜地方検察庁検事正 福岡高等検察庁検事長 日本弁護士連合会弁護士登録（東京弁護士会所属） 八重洲総合法律事務所（現任） 当社監査役（現任）	(注)6	
計							86,600

- (注) 1 取締役関根攻、末綱隆、中西雅明の各氏は、社外取締役であります。
2 監査役栗原政義、松井巖の両氏は、社外監査役であります。
3 取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4 監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5 監査役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成33年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
6 監査役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成34年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
7 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法に定める補欠監査役1名を選出しております。補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (株)
五十嵐 孝 男	昭和21年1月2日生	平成12年10月 平成13年6月 平成23年6月 平成30年3月	株式会社交通建設入社 経理部長 取締役経理部長 常勤監査役（現任） 当社監査役	

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社グループは、規律ある、透明性の高い、より効率的な経営と、意思決定の迅速化及び経営環境の変化に柔軟に対応できる経営機構の構築などを、コーポレート・ガバナンスの基本と考えており、その「基本的な考え方」や「基本方針」を、「東鉄工業行動憲章」及び「中期経営計画」に、下記の通り具体的に定めております。

「東鉄工業行動憲章」

イ．「～安全はすべてに優先する～」という「経営理念」に基づき、安全で高品質な技術とサービスをお客様に提供することに努め、法令はもとより、広く社会の規範・倫理を遵守、尊重すること。

ロ．誠実で公正な企業活動を通じて「社会的責任」を果たし、すべてのステークホルダーから信頼される経営に努め、こうした活動によって社会と共に「持続的な成長」をするとともに、「企業価値」の更なる向上を目指すこと。

ハ．当社グループのすべての役員、従業員が遵守すべき11ヶ条からなる「東鉄工業行動憲章」を行動規範とすること。

「中期経営計画」基本方針

中期経営計画（2018～2021）『東鉄 3D Power Up 2021』において、当社の目指す「ゴール」、及び「基本方針」として、次の事項を掲げております。

< 当社目指す「ゴール」 >

イ．経営理念に基づいた軸のブレない経営 / ステークホルダーから信頼される誠実な経営により、社会やお客様の安全・安心・品質などの様々なニーズに的確にお応えし、当社の社会的使命をしっかりと果たすこと。

ロ．事業活動を通じ、「企業価値向上」と「持続的成長」を図り、「堂々たる成長と飛躍」（「Jump」）に挑戦し続けること。

ハ．「SDGs」及び「ESG」を意識した経営により、お客様、株主、協力会社、従業員、地球環境など、ステークホルダーとの「共通価値の創造」を図ること。

< 基本方針 >

イ．「基本戦略」である「3D戦略」を継続強化し、良好な事業環境を最大限活かし、「成長戦略」（X軸×Z軸）により、受注力、キャッシュ創出力を一層強化するとともに、「クオリティ戦略」（Z軸）との「スパイラル相乗効果」を図る。

ロ．「クオリティ戦略」（Z軸）においては、将来の「Jump」に備え、Z軸を最大限に伸ばし、「基礎体力」を一段と強化するための3年間と位置づけ、「Power Up Project」を新たにスタートさせる。

ハ．このプロジェクトを通じて、ステークホルダーとの「共通価値の創造」を図る。

ニ．「追い風環境」の今だからこそ、創出キャッシュを有効に活用する。

ホ．「Power Up Project」により伸ばしたZ軸を基に、さらなる「成長戦略」（X軸×Y軸）の展開を図り、「堂々たる成長と飛躍」（「Jump」）につなげる。

(コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況)

(1) 会社の機関の内容

取締役会

- イ．取締役は、株主総会の決議によって選任し、「取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う。」旨を定款に規定しております。
- ロ．当社は、取締役会設置会社であり、社外取締役3名（うち独立役員2名）を含む9名の取締役で取締役会を構成し、定款においては、「当社の取締役は、13名以内とする。」旨を規定しております。
- ハ．取締役会は、原則として月1回開催し、会社運営に関する基本方針及び業務執行に関する重要事項を決定するとともに、執行役員の職務を監督しております。

監査役会

- イ．当社は、監査役会設置会社であり、社外監査役2名（うち独立役員2名）を含む3名の監査役で監査役会を構成しております。
- ロ．監査役は、取締役会、その他重要会議に出席し、取締役の意思決定の状況及び取締役会の監督業務の履行状況を監視し、法令・定款に従い検証しております。

経営会議

経営会議は、経営及び業務執行に関する重要事項を審議・報告する場とし、会社全般の統制に資することを目的に、取締役社長、事業本部長、常勤監査役で構成し、原則月2回開催しております。

執行役員会

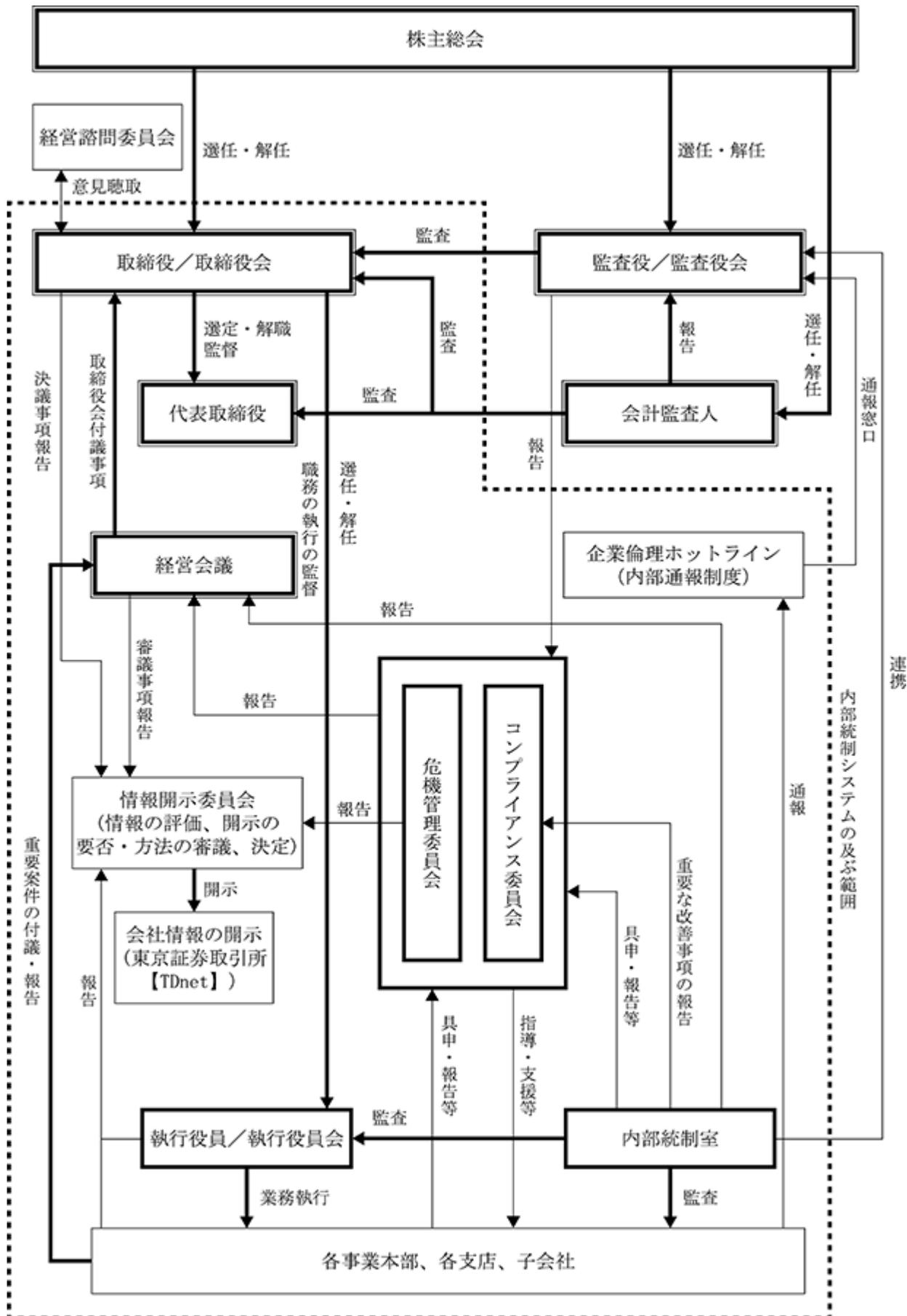
- イ．当社は、経営と業務執行を分離し、業務執行機能の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。
- ロ．執行役員会は、経営方針及び重要な施策に係る事案の審議・報告を行い、円滑な業務執行を図ることを目的に、原則として取締役の兼務者6名を含む33名の執行役員で構成しております。
- ハ．執行役員会は、3箇月に1回以上開催し、取締役会における決議事項の伝達・周知並びに執行に係る審議、各本部・支店の事業計画推進に係る事案の審議等を行っております。

会計監査人

当社は、会計監査人として、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を結んでおり、会計監査を受けております。業務執行した公認会計士は、薮和彦及び阿部與直であり、同監査法人に所属しております。継続監査年数については7年以内となっております。なお、会計監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士3名、その他10名（公認会計士試験合格者、システム監査担当者等）となっております。

なお、当社は、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実に向け、コーポレート・ガバナンスについての特に重要な事項に関する検討に当たり、独立社外取締役に対して、事前に考え方及び方針等を説明し、意見聴取することを目的に、取締役会の任意の諮問機関として「経営諮問委員会」を設置・運営しております。

これらの機関を図示すると、次の通りであります。



(2)現状のガバナンス体制を採用している理由

当社は、監査役会設置会社であり、社外監査役2名（うち独立役員2名）を選任し、各監査役の独任制を保ちつつ、社外の専門的見地から、重要会議等において助言・提言をいただいております。

また、取締役会は、社外取締役3名（うち独立役員2名）を選任し、社外の独立性を担保し、専門的見地から、重要会議等において助言・提言をいただいております。

なお、経営と業務執行を分離するため、執行役員制度を導入し、意思決定の迅速性と業務執行の機能強化を図っております。

(3) 内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法第362条第4項第6号及び第5項の規定により、平成30年6月26日開催の取締役会において、業務の適正を確保するための体制（内部統制システム等に関する事項）について、一部改定を行い下記のとおり決定しております。

当社グループの取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ．当社グループの役職員の職務の執行が法令及び定款に適合し、かつ社会的責任を果たすため、東鉄工業行動憲章を全役職員に周知徹底する。

ロ．コンプライアンス担当役員（CCO）を置き、コンプライアンス統括部署を設置するとともに、本部、支店、子会社それぞれにコンプライアンス責任者（CO）及びコンプライアンス担当者を配置する。

ハ．コンプライアンス委員会を定期的に開催し、当社グループのコンプライアンス体制の確立、浸透、定着を図る。

ニ．内部統制室は、監査を通じて、内部統制システムに対する監視を行う。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項は、当社の社内規定に従って管理を行い、取締役は常時閲覧可能とする。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

「取締役会規程」を定め、取締役会において、会社運営に関する基本方針及び業務執行に関する重要事項を決議する。また、「取締役会規程」及び「職務権限規程」を定め、業務執行にあたって責任の明確化と意思決定の迅速化を図る。

損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理に関する体制を整備するため、リスク管理に係る規則の見直し及び制定や役職員への教育研修等を実施するとともに、当社グループの役職員に対する内部通報システムの整備等を行う。

当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

イ．子会社管理規程により、子会社の営業成績、財務状況その他の重要な情報について、定期的に報告を受ける。

ロ．リスク管理に係る規則により、子会社はリスクに関する管理体制を構築する。

ハ．年度計画に則り、当社グループが達成すべき目標を明確化するとともに、子会社ごとにPDCA手法により業務遂行状況の評価、管理を行う。

ニ．当社グループの役職員の職務の執行が法令及び定款に適合し、かつ社会的責任を果たすため、東鉄工業行動憲章を子会社の全役職員に周知徹底する。

監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項

イ．内部統制室に所属する使用人に、必要あるときは、監査役の職務の補助業務を担当させる。

ロ．内部統制室の当該使用人の人事等については、事前に監査役と協議する。

ハ．監査役の職務の補助業務を担当する使用人が、その業務に関して監査役から指示を受けたときは、専らその指揮命令に従う体制を整備する。

監査役への報告に関する体制

- イ．当社グループの役職員は、職務執行に関して重大な法令・定款違反、もしくは不正行為の事実、又は会社に重大な損失を与える事実が発生し又は恐れがあることを知ったときは、遅滞なく監査役に報告する。
- ロ．当社グループの役職員は、事業、組織に重大な影響を及ぼす決定をしたときは遅滞なく監査役に報告する。
- ハ．当社グループの役職員を対象とした内部通報システムを整備し、当社の監査役を通報窓口とする。
- ニ．第三者からの通報は、当社ホームページ上のお問い合わせ窓口（メール）又は電話で受付し、必要ある場合は監査役へ報告する。
- ホ．当社グループの役職員が上記各項に係る通報をしたことを理由として、不利益な取扱いをすることを禁止する。

監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は償還の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役がその職務の執行について必要な費用の前払い等の請求をしたときは、速やかに当該費用又は債務を処理する。

その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

- イ．代表取締役は監査役と定期的な意見交換の場を設け、会社運営に関する意見の交換のほか意思の疎通を図る。
- ロ．当社は、効果的な監査業務の遂行のため、監査役と内部統制室との連携を図る。

当社グループの業務の適正を確保するための体制の運用状況に関する事項

当社グループの業務の適正を確保するための体制の運用については、取締役会において定期的に検証を行い、事業年度の運用状況の概要を事業報告に記載する。

財務報告に係る内部統制の体制及び評価に関する事項

- イ．財務計算に関する書類その他の情報の適正性を確保するために必要な体制を整備し、運用する。
- ロ．前項に定める体制の整備及び運用の状況について、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に従って、事業年度ごとにこれを評価する。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社グループは「東鉄工業行動憲章」において、「私たちは、市民社会の秩序と安全に脅威を与える反社会的勢力や団体に対しては、毅然とした態度で臨みます。」と宣言し、反社会的勢力との関係遮断に取り組む。

また、警察当局や関係機関などと十分に連携し、反社会的勢力に関する情報を積極的に収集ならびに共有化するとともに、研修等の機会を通じて反社会的勢力への対応について教育・研修を継続して行う。

(4) リスク管理体制の整備の状況

危機管理委員会

当社は、当社及び当社グループの事業運営に重大な影響を及ぼす可能性のある事態が発生した場合に、情報の収集及び一元管理を行い、適切な対策を講じることで、被害・損失・影響等の最小限化、並びに危機管理の研究・教育の推進等を図り、危機発生未然防止に努めるために、本社に危機管理委員会を設置しております。また、危機管理体制の全社推進のため、支店及び子会社においても、本社危機管理委員会に準拠して委員会を設置しております。

コンプライアンス委員会

リスクマネジメント及びコンプライアンス体制の更なる強化を図り、株主をはじめとする全てのステークホルダーから、より一層の信頼を得られるよう上記（1）経営会議メンバーのもと、本社組織に「コンプライアンス委員会」を設置し、原則として四半期毎に開催しております。さらに、コンプライアンス体制の全社推進のため、支店及び子会社においても、本社コンプライアンス委員会に準拠して委員会を設置しております。

また、本社においては、各年度に開催する委員会のうち、原則として1回は、社外取締役を委員長とする「拡大コンプライアンス委員会」を開催しております。

(5) 内部監査、監査役監査及び会計監査の状況

当社は、コンプライアンスや様々なリスクに対し、適時適切に対処できる内部統制システムの構築を図るため、内部統制室（5名）（提出日現在）において、年度計画等に基づき、本社及び支店並びに子会社に対し、内部統制評価及び業務監査を行い、改善指導等を実施しております。

また、監査役は、取締役会その他の重要な会議への出席、重要な書類・情報の閲覧・確認、会社の業務及び財産の状況に関する調査等を行い、取締役等に対する助言または勧告等の意見の表明などを行っており、内部統制室とは内部監査計画・結果について報告を受けるなど緊密な連携を行っております。

会計監査人に関しましては、上記（1）の欄に記載のとおりであります。また、監査役と会計監査人とは、定期的な会合を持つとともに、日頃より監査役は、会計監査人より監査の経過、内容について報告を受けており、会計監査人の監査の方法、結果につき逐次、把握することとしております。

同様に、内部統制室と会計監査人との相互連携についても、定期的に情報交換及び意見交換を行っております。

なお、常勤監査役栗原政義氏は、他社において長年に亘る経理業務の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

(6) 社外役員

社外取締役

当社は、3名（提出日現在）の社外取締役を招聘し、社外の専門的見地から、取締役会において助言・提言をいただき、意思決定の妥当性・適正性を確保しております。

社外取締役である関根攻氏は、主に弁護士としての専門的見地から、取締役会において意思決定の妥当性・適正性を確保するため、必要に応じて適切な助言・提言を行っております。

また、同氏は東京短資株式会社の社外監査役であります。なお、当社と同社との間には特別な関係はありません。

社外取締役である末綱隆氏は、主に官界における豊富な知識と経験から、取締役会において意思決定の妥当性・適正性を確保するため、必要に応じて適切な助言・提言を行っております。

また、同氏はJCRファーム株式会社の社外取締役、株式会社関電工、京浜急行電鉄株式会社の社外監査役であります。なお、当社と各社との間には特別な関係はありません。

社外取締役である中西雅明氏は、主に東日本旅客鉄道株式会社における豊富な経験とその経験を通して培われた高い見識を当社経営に活かしていただきたく、社外取締役として選任しております。

また、同氏は東日本旅客鉄道株式会社の執行役員鉄道事業本部設備部長であり、同社は、当社の主要株主及び特定関係事業者であります。

社外監査役

当社は、2名の社外監査役を招聘し、社外の専門的見地から、重要会議等において助言・提言をいただき、意思決定の妥当性・適正性を確保しております。

社外監査役である栗原政義氏は、主に建設業界全般における豊富な知識と経験から意見を述べております。監査役会においては監査に関する重要事項の協議等を、取締役会では取締役の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言を行っております。

また、同氏は鉄建建設株式会社の出身であり、同社との間に社外監査役を相互就任しております。なお、同社と当社との取引は、その規模、性質に照らして、株主・投資家の判断に影響を及ぼすおそれはないと判断されることから、概要の記載を省略しております。

社外監査役である松井巖氏は、主に弁護士としての豊富な経験と知識を当社の経営に活かしていただきたく、社外監査役として選任しております。

また、同氏は株式会社オリエントコーポレーション、長瀬産業株式会社の社外監査役であります。なお、当社と両社との間には特別な関係はありません。

社外役員による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係は、(1)会社の機関の内容及び(3)内部統制システムの整備の状況に記載しております。

当社と各社外取締役及び各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。

当社は、会社法に定める社外取締役の要件、及び東京証券取引所が定める独立性基準に従い、独立社外取締役を選任しております。

(7) 役員の報酬等

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	224	160	-	63	-	9
監査役 (社外監査役を除く。)	17	15	-	1	-	1
社外役員	31	29	-	1	-	5

- (注) 1 上記には、平成29年6月27日開催の第74回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名及び平成30年3月8日付で辞任した社外監査役1名を含んでおります。
- 2 役員ごとの報酬総額につきましては、1億円以上を支給している役員はおりませんので記載を省略しております。
- 3 取締役には、使用人兼務取締役の使用人給与は支給しておりません。
- 4 取締役の報酬限度額は、平成18年6月29日開催の第63回定時株主総会において年額3億円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。
- 5 監査役の報酬限度額は、平成18年6月29日開催の第63回定時株主総会において年額6,000万円以内と決議いただいております。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

社内取締役の報酬は、月額報酬と賞与により構成しております。報酬の決定方針につきましては、職位及び業績に基づくインセンティブ付けを行うこととしております。取締役の報酬の決定手続きにつきましては、上記方針に基づき、取締役会の任意の諮問機関である「経営諮問委員会」において意見聴取の後、取締役会において審議・承認の上決定しております。また、社外取締役は、業務執行から独立した立場であることから、賞与の支給はありません。

(8) 株式の保有状況

保有目的が純投資目的以外の目的の投資株式

銘柄数 41銘柄

貸借対照表計上額の合計額 12,463百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東日本旅客鉄道(株)	659,000	6,388	取引関係の維持・強化
日本電設工業(株)	672,631	1,349	取引関係の維持・強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	3,761,717	767	取引関係の維持・強化
第一建設工業(株)	511,760	637	取引関係の維持・強化
名工建設(株)	524,658	448	取引関係の維持・強化
(株)千葉銀行	579,729	414	取引関係の維持・強化
(株)めぶきフィナンシャルグループ	720,529	320	取引関係の維持・強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	349,500	244	取引関係の維持・強化
鉄建建設(株)	673,150	225	取引関係の維持・強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	33,100	133	取引関係の維持・強化
(株)コンコルディア ・フィナンシャルグループ	217,245	111	取引関係の維持・強化
日本信号(株)	87,500	87	取引関係の維持・強化
ブルドックソース(株)	30,360	69	取引関係の維持・強化
(株)カワチ薬品	20,000	60	取引関係の維持・強化
(株)大京	239,388	52	取引関係の維持・強化
セントラル警備保障(株)	30,000	50	取引関係の維持・強化
(株)群馬銀行	77,036	44	取引関係の維持・強化
(株)りそなホールディングス	66,158	39	取引関係の維持・強化
日本坩堝(株)	200,000	35	取引関係の維持・強化
富士ソフト(株)	2,970	8	取引関係の維持・強化
東京急行電鉄(株)	10,000	7	取引関係の維持・強化
相鉄ホールディングス(株)	13,086	6	取引関係の維持・強化

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
富士ソフト(株)	19,000	53	議決権行使権限(退職給付信託)

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東日本旅客鉄道(株)	659,000	6,499	取引関係の維持・強化
日本電設工業(株)	672,631	1,415	取引関係の維持・強化
第一建設工業(株)	511,760	910	取引関係の維持・強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	3,761,717	719	取引関係の維持・強化
名工建設(株)	524,658	600	取引関係の維持・強化
(株)千葉銀行	579,729	495	取引関係の維持・強化
(株)めぶきフィナンシャルグループ	720,529	294	取引関係の維持・強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	349,500	243	取引関係の維持・強化
鉄建建設(株)	67,315	205	取引関係の維持・強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	33,100	147	取引関係の維持・強化
(株)コンコルディア ・フィナンシャルグループ	217,245	127	取引関係の維持・強化
セントラル警備保障(株)	30,000	89	取引関係の維持・強化
日本信号(株)	87,500	86	取引関係の維持・強化
ブルドックソース(株)	30,360	67	取引関係の維持・強化
日本坩堝(株)	200,000	67	取引関係の維持・強化
(株)大京	24,782	53	取引関係の維持・強化
(株)カワチ薬品	20,000	52	取引関係の維持・強化
(株)群馬銀行	77,036	46	取引関係の維持・強化
(株)りそなホールディングス	66,158	37	取引関係の維持・強化
富士ソフト(株)	2,970	12	取引関係の維持・強化
東京急行電鉄(株)	5,000	8	取引関係の維持・強化
相鉄ホールディングス(株)	2,617	7	取引関係の維持・強化

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
富士ソフト(株)	19,000	80	議決権行使権限(退職給付信託)

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

保有目的が純投資目的の投資株式

該当事項はありません。

保有目的を変更した株式

該当事項はありません。

(9) 取締役会において決議できる株主総会決議事項

自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策を遂行することを可能にするため、「当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる。」旨を定款に規定しております。

中間配当

当社は、株主の皆さまへの利益配分の機会を充実させるため、会社法第454条第5項の規定により、「当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる。」旨を定款に規定しております。

(10) 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、「会社法第309条第2項に定める決議は、本定款に別段の定めがある場合を除き、当該株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う。」旨を定款に規定しております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	52		52	
連結子会社				
計	52		52	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

特記すべき事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準の内容を適切に把握できる体制を確保するための特段の取組みとして、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等の行う研修への参加や会計専門誌の定期購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	17,357,680	15,788,110
受取手形・完成工事未収入金等	5 75,718,823	3 82,342,494
未成工事支出金等	1, 6 3,304,316	1, 6 3,425,492
繰延税金資産	1,243,639	931,119
その他	3,496,361	2,232,357
貸倒引当金	7,335	7,777
流動資産合計	101,113,486	104,711,796
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,387,130	8,842,778
機械、運搬具及び工具器具備品	10,748,998	11,495,694
土地	1,629,952	1,627,341
リース資産	42,864	10,452
建設仮勘定	259,692	240,261
減価償却累計額	14,117,728	14,745,968
有形固定資産合計	6,950,909	7,470,558
無形固定資産		
投資その他の資産	321,592	432,290
投資有価証券	2 13,413,475	2 14,198,373
退職給付に係る資産	98,421	560,201
その他	2,266,648	919,479
貸倒引当金	1,843,834	453,583
投資その他の資産合計	13,934,711	15,224,471
固定資産合計	21,207,213	23,127,320
資産合計	122,320,699	127,839,116

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	32,971,664	³ 32,205,607
未払法人税等	2,149,687	1,440,360
未成工事受入金	1,184,508	605,441
完成工事補償引当金	593,207	438,693
工事損失引当金	⁶ 719,997	⁶ 119,725
賞与引当金	1,521,706	1,656,370
その他	9,539,130	9,984,473
流動負債合計	48,679,902	46,450,670
固定負債		
長期未払金	51,780	42,730
リース債務	85,479	29,450
長期預り敷金保証金	355,054	345,507
繰延税金負債	1,769,362	1,714,775
修繕引当金	305,830	398,283
退職給付に係る負債	600,842	597,645
資産除去債務	130,453	132,490
固定負債合計	3,298,802	3,260,882
負債合計	51,978,705	49,711,553
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,810,000	2,810,000
資本剰余金	2,351,082	2,351,082
利益剰余金	61,707,930	69,876,087
自己株式	1,793,673	2,794,021
株主資本合計	65,075,338	72,243,147
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,571,810	5,057,481
退職給付に係る調整累計額	316,251	248,138
その他の包括利益累計額合計	4,255,558	4,809,342
非支配株主持分	1,011,097	1,075,072
純資産合計	70,341,994	78,127,562
負債純資産合計	122,320,699	127,839,116

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
売上高		
完成工事高	124,113,894	123,912,323
付帯事業売上高	6,520,745	7,296,921
売上高合計	130,634,639	131,209,245
売上原価		
完成工事原価	¹ 105,581,052	¹ 105,767,166
付帯事業売上原価	4,968,478	5,656,790
売上原価合計	110,549,530	111,423,957
売上総利益		
完成工事総利益	18,532,841	18,145,157
付帯事業総利益	1,552,267	1,640,130
売上総利益合計	20,085,108	19,785,287
販売費及び一般管理費	^{2, 3} 6,713,258	^{2, 3} 6,783,162
営業利益	13,371,850	13,002,125
営業外収益		
受取利息	1,413	1,670
受取配当金	213,401	222,956
持分法による投資利益	57,958	50,447
その他	31,921	28,250
営業外収益合計	304,694	303,325
営業外費用		
支払手数料	6,834	3,260
その他	1,300	691
営業外費用合計	8,135	3,951
経常利益	13,668,410	13,301,499
特別利益		
固定資産売却益	⁴ 2,243	⁴ 92,835
ゴルフ会員権売却益	2,621	1,370
その他	14	3
特別利益合計	4,879	94,208
特別損失		
固定資産売却損	⁵ 133	-
固定資産除却損	⁶ 49,130	⁶ 45,565
ゴルフ会員権評価損	18,714	13,412
その他	2,175	-
特別損失合計	70,153	58,977
税金等調整前当期純利益	13,603,136	13,336,730
法人税、住民税及び事業税	4,083,828	3,308,032
法人税等調整額	114,587	11,419
法人税等合計	3,969,240	3,296,613
当期純利益	9,633,896	10,040,116
非支配株主に帰属する当期純利益	50,871	57,776
親会社株主に帰属する当期純利益	9,583,025	9,982,340

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	9,633,896	10,040,116
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	256,928	489,802
退職給付に係る調整額	25,550	68,112
持分法適用会社に対する持分相当額	1,816	3,824
その他の包括利益合計	229,560	561,739
包括利益	9,863,457	10,601,856
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	9,820,776	10,536,124
非支配株主に係る包括利益	42,680	65,731

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,810,000	2,351,082	53,714,687	903,202	57,972,566
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	1,589,782	-	1,589,782
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	9,583,025	-	9,583,025
自己株式の取得	-	-	-	890,471	890,471
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	7,993,242	890,471	7,102,771
当期末残高	2,810,000	2,351,082	61,707,930	1,793,673	65,075,338

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	4,308,507	290,701	4,017,806	970,172	62,960,546
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	-	-	1,589,782
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	-	-	9,583,025
自己株式の取得	-	-	-	-	890,471
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	263,302	25,550	237,751	40,924	278,676
当期変動額合計	263,302	25,550	237,751	40,924	7,381,447
当期末残高	4,571,810	316,251	4,255,558	1,011,097	70,341,994

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,810,000	2,351,082	61,707,930	1,793,673	65,075,338
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	1,814,183	-	1,814,183
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	9,982,340	-	9,982,340
自己株式の取得	-	-	-	1,000,348	1,000,348
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	8,168,157	1,000,348	7,167,809
当期末残高	2,810,000	2,351,082	69,876,087	2,794,021	72,243,147

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	4,571,810	316,251	4,255,558	1,011,097	70,341,994
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	-	-	1,814,183
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	-	-	9,982,340
自己株式の取得	-	-	-	-	1,000,348
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	485,671	68,112	553,784	63,975	617,759
当期変動額合計	485,671	68,112	553,784	63,975	7,785,568
当期末残高	5,057,481	248,138	4,809,342	1,075,072	78,127,562

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	13,603,136	13,336,730
減価償却費	936,581	1,062,245
貸倒引当金の増減額（ は減少）	118,982	1,389,809
長期未払金の増減額（ は減少）	3,850	9,050
工事損失引当金の増減額（ は減少）	607,186	600,272
賞与引当金の増減額（ は減少）	120,911	134,664
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	195,048	94,977
修繕引当金の増減額（ は減少）	38,576	92,453
受取利息及び受取配当金	214,814	224,627
持分法による投資損益（ は益）	57,958	50,447
有形固定資産除売却損益（ は益）	47,020	47,270
売上債権の増減額（ は増加）	5,946,864	6,623,670
未成工事支出金等の増減額（ は増加）	514,142	121,176
仕入債務の増減額（ は減少）	354,851	885,473
未成工事受入金の増減額（ は減少）	170,489	579,067
未払消費税等の増減額（ は減少）	523,885	27,120
その他	301,317	2,241,592
小計	8,716,381	6,458,917
利息及び配当金の受取額	218,043	228,463
法人税等の支払額	5,022,875	4,020,184
債務保証履行による支払額	323,815	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,587,733	2,667,197
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	4,120,780	1,629,614
有形固定資産の売却による収入	2,743,431	369,651
無形固定資産の取得による支出	164,728	167,979
投資有価証券の取得による支出	9,596	18,062
その他	13,900	28,087
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,565,575	1,417,917
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	14,468	5,943
自己株式の取得による支出	890,471	1,000,348
配当金の支払額	1,588,020	1,810,802
非支配株主への配当金の支払額	1,756	1,756
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,494,716	2,818,850
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	472,558	1,569,570
現金及び現金同等物の期首残高	17,830,238	17,357,680
現金及び現金同等物の期末残高	17,357,680	15,788,110

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社数 4社
- (2) 連結子会社名
 - 東鉄機工株式会社
 - 東鉄メンテナンス工事株式会社
 - 東鉄創建株式会社
 - 興和化成株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用関連会社数 3社
- (2) 持分法適用関連会社名
 - 株式会社ジェイテック
 - 株式会社全溶
 - 株式会社日本線路技術

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産(未成工事支出金等)

a 未成工事支出金

個別法による原価法

b 未成業務支出金

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

c 商品及び製品

総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

d 材料貯蔵品

移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に係るかし担保の費用に備えるため、将来の見積補償額に基づいて計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度対応分を計上しております。

工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上しております。

修繕引当金

保有する線路保守用車両等の定期的な保守及び修繕の支出に備えるため、当該支出見込額のうち当連結会計年度末までに負担すべき額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際連結会計年度から費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、78,366,282千円であります。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1 未成工事支出金等の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未成工事支出金	1,797,522千円	1,405,065千円
未成業務支出金	123,565	234,024
商品及び製品	420,253	657,014
材料貯蔵品	962,974	1,129,388
計	3,304,316	3,425,492

2 このうち非連結子会社及び関連会社に対する金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	861,883千円	912,319千円

3 期末日満期手形等の会計処理については、手形交換日または現金決済日をもって決済処理をしております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	千円	44,023千円
電子記録債権		2,376
支払手形		83,114
電子記録債務		237,150

4 偶発債務(保証債務)

下記の金融機関等からの借入等に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(銀行借入金保証)		
従業員(住宅融資制度)	86,530千円	77,611千円

5 債権流動化による売掛債権譲渡高

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	8,500,125千円	千円

6 工事損失引当金に対応する未成工事支出金の額

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	10,032千円	4,582千円

(連結損益計算書関係)

1 完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	648,019千円	30,979千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
従業員給料手当	2,938,564千円	3,008,454千円
賞与引当金繰入額	446,905	452,931
退職給付費用	147,148	143,132
貸倒引当金戻入額	118,972	58,564

3 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
研究開発費	80,698千円	98,737千円

4 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械、運搬具及び工具器具備品	2,243千円	96千円
土地	-	92,739
計	2,243	92,835

5 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械、運搬具及び工具器具備品	133千円	- 千円

6 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	39,059千円	25,288千円
機械、運搬具及び工具器具備品	9,960	20,023
無形固定資産	110	253
計	49,130	45,565

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	342,732千円	716,404千円
組替調整額	0	3
税効果調整前	342,732	716,401
税効果額	85,804	226,598
その他有価証券評価差額金	256,928	489,802
退職給付に係る調整額		
当期発生額	88,907	60,828
組替調整額	52,080	37,345
税効果調整前	36,827	98,173
税効果額	11,276	30,060
退職給付に係る調整額	25,550	68,112
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	1,816	3,824
その他の包括利益合計	229,560	561,739

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	36,100,000			36,100,000

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	771,467	300,152		1,071,619

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

平成28年11月8日の取締役会決議による増加 300,000株
単元未満株式の買取りによる増加 152株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	847,884	24	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年11月8日 取締役会	普通株式	741,897	21	平成28年9月30日	平成28年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	945,766	利益剰余金	27	平成29年3月31日	平成29年6月28日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	36,100,000			36,100,000

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,071,619	291,737		1,363,356

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

平成29年5月11日の取締役会決議による増加	291,600株
単元未満株式の買取りによる増加	137株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	945,766	27	平成29年3月31日	平成29年6月28日
平成29年11月8日 取締役会	普通株式	868,417	25	平成29年9月30日	平成29年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,146,309	利益剰余金	33	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金預金勘定	17,357,680千円	15,788,110千円
現金及び現金同等物	17,357,680	15,788,110

(リース取引関係)

1 リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械、運搬具及び工具器具備品	550,771	477,499	73,271
合計	550,771	477,499	73,271

(単位：千円)

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械、運搬具及び工具器具備品	550,771	523,397	27,374
合計	550,771	523,397	27,374

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	45,897	27,374
1年超	27,374	
合計	73,271	27,374

なお、取得価額相当額及び未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
支払リース料	45,897	45,897
減価償却費相当額	45,897	45,897

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	1,621,328	1,353,492
1年超	4,045,627	3,103,434
合計	5,666,956	4,456,926

3 転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上している額

(1) リース投資資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産	139,154	84,302

(2) リース債務

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動負債	54,852	54,852
固定負債	84,302	29,450

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形・完成工事未収入金等の営業債権に係る顧客の信用リスクに関しては、取引事前審査、定期的な与信状況報告、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行い、リスク低減を図っております。

投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されていますが、四半期ごとに時価把握を行っております。

支払手形・工事未払金等の営業債務及び借入金(運転資金)の流動性リスクに関しては、月次資金繰計画を作成するなどの方法により管理を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(4) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち84.1%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるもの(注2)を参照ください。)及び関連会社株式は、次表には含めておりません。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金預金	17,357,680	17,357,680	
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	75,718,823	75,741,305	22,482
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	12,265,898	12,265,898	
資産計	105,342,402	105,364,884	22,482
(1) 支払手形・工事未払金等	32,971,664	32,971,664	
負債計	32,971,664	32,971,664	

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金預金	15,788,110	15,788,110	
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	82,342,494	82,360,983	18,488
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	13,000,360	13,000,360	
資産計	111,130,965	111,149,454	18,488
(1) 支払手形・工事未払金等	32,205,607	32,205,607	
負債計	32,205,607	32,205,607	

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形・完成工事未収入金等

これらの時価について、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、市場価格等によっております。

また、有価証券について定められた注記事項は、「有価証券関係」に記載されております。

負 債

(1) 支払手形・工事未払金等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式	285,693	285,693

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	17,357,680			
受取手形・完成工事未収入金等	67,473,356	8,245,466		
合計	84,831,037	8,245,466		

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	15,788,110			
受取手形・完成工事未収入金等	74,546,900	7,795,593		
合計	90,335,011	7,795,593		

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
(1) 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	12,195,799	5,650,222	6,545,577
債券			
その他			
小計	12,195,799	5,650,222	6,545,577
(2) 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	70,098	76,216	6,118
債券			
その他			
小計	70,098	76,216	6,118
合計	12,265,898	5,726,439	6,539,458

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額285,693千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
(1) 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	12,908,046	5,648,317	7,259,728
債券			
その他			
小計	12,908,046	5,648,317	7,259,728
(2) 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	92,314	96,180	3,865
債券			
その他			
小計	92,314	96,180	3,865
合計	13,000,360	5,744,498	7,255,862

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額285,693千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

- 2 連結会計年度中に売却したその他有価証券
前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

- 3 減損処理を行った有価証券
前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

当社は、確定給付年金制度にキャッシュバランスプランを導入しており、連結子会社は、退職一時金制度を設けております。なお、一部の連結子会社は、退職一時金制度に関し、中小企業退職金共済制度を併用しております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。

当社は、確定給付企業年金制度に退職給付信託を設定しており、連結子会社は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	8,530,791 千円	8,656,643 千円
勤務費用	542,122	567,717
利息費用	76,777	77,909
数理計算上の差異の発生額	95,448	89,128
退職給付の支払額	588,496	543,951
退職給付債務の期末残高	8,656,643	8,847,448

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	8,338,016 千円	8,755,064 千円
期待運用収益	190,405	199,819
数理計算上の差異の発生額	6,541	149,957
事業主からの拠出額	808,597	846,760
退職給付の支払額	588,496	543,951
年金資産の期末残高	8,755,064	9,407,650

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	566,288 千円	600,842 千円
退職給付費用	59,260	58,768
退職給付の支払額	24,706	61,964
退職給付に係る負債の期末残高	600,842	597,645

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	8,656,643 千円	8,847,448 千円
年金資産	8,755,064	9,407,650
	98,421	560,201
非積立型制度の退職給付債務	600,842	597,645
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	502,420	37,443
退職給付に係る負債	600,842	597,645
退職給付に係る資産	98,421	560,201
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	502,420	37,443

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
勤務費用	542,122 千円	567,717 千円
利息費用	76,777	77,909
期待運用収益	190,405	199,819
数理計算上の差異の費用処理額	94,504	79,769
過去勤務費用の費用処理額	42,423	42,423
簡便法で計算した退職給付費用	59,260	58,768
確定給付制度に係る退職給付費用	539,834	541,921

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
過去勤務費用	42,423 千円	42,423 千円
数理計算上の差異	5,596	140,597
合計	36,827	98,173

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	169,695 千円	127,271 千円
未認識数理計算上の差異	609,659	469,061
合計	439,963	341,789

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産の合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	38%	55%
株式	24%	22%
一般勘定	14%	14%
現金及び預金	18%	3%
その他	6%	6%
合計	100%	100%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度1%、当連結会計年度1%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
割引率	0.9%	0.9%
長期期待運用収益率	2.3%	2.3%

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税等	131,225千円	94,925千円
完成工事補償引当金	183,063	134,327
工事損失引当金	221,781	36,659
賞与引当金	472,896	511,126
賞与に対する社会保険料	70,214	75,516
退職給付に係る負債	202,024	59,463
貸倒引当金繰入限度超過額	654,217	227,803
修繕引当金	95,908	123,886
未実現利益調整額	37,036	43,408
その他	412,157	321,596
繰延税金資産 小計	2,480,525	1,628,715
評価性引当額	853,088	21,729
繰延税金資産 合計	1,627,436	1,606,985
繰延税金負債		
退職給付信託設定損益	30,775	30,775
資産除去債務に対応する除去費用	18,724	16,914
その他有価証券評価差額金	2,012,982	2,239,580
その他	33,027	33,027
繰延税金負債 合計	2,095,508	2,320,297
繰延税金資産(負債)の純額	468,072	713,312

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.86 %	30.86 %
(調整)		
永久に損金に算入されない項目	0.33	0.45
永久に益金に算入されない項目	0.10	0.11
住民税均等割等	0.56	0.54
評価性引当額	0.26	6.28
持分法投資損益	0.13	0.12
所得拡大促進税制等の税額控除	2.23	1.77
その他	0.15	1.16
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.18	24.72

(賃貸等不動産関係)

当社では、東京都その他の地域において、賃貸用の商業ビル等(土地を含む。)を有しております。

平成29年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は219,062千円(賃貸収益は付帯事業売上高に、主な賃貸費用は付帯事業売上原価に計上)であります。

平成30年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は235,232千円(賃貸収益は付帯事業売上高に、主な賃貸費用は付帯事業売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	998,033	951,309
	期中増減額	46,724	34,789
	期末残高	951,309	916,519
期末時価		4,145,912	4,202,172

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は、賃貸用の商業ビル等のリニューアル(847千円)であり、主な減少額は減価償却費(46,798千円)であります。
当連結会計年度の主な増加額は、賃貸用の商業ビル等のリニューアル(12,479千円)であり、主な減少額は減価償却費(44,006千円)であります。
- 3 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源配分の決定及び業績評価を行うために、定期的に検討が可能な単位としております。

当社グループは、「土木事業」及び「建築事業」を報告セグメントとしております。

「土木事業」は、土木工事全般に関する、企画、設計、施工、監理等の事業を行っております。

「建築事業」は、建築工事全般に関する、企画、設計、施工、監理等の事業を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	89,006,743	35,107,150	124,113,894	6,520,745	130,634,639		130,634,639
セグメント間の 内部売上高又は振替高		857,762	857,762	2,271,915	3,129,677	3,129,677	
計	89,006,743	35,964,912	124,971,656	8,792,661	133,764,317	3,129,677	130,634,639
セグメント利益	8,595,506	3,990,951	12,586,458	770,436	13,356,894	14,955	13,371,850
セグメント資産	65,652,982	22,829,046	88,482,029	7,805,075	96,287,104	26,033,594	122,320,699
その他の項目							
減価償却費	692,235	47,594	739,829	196,752	936,581		936,581
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	4,359,767	71,158	4,430,925	44,763	4,475,689		4,475,689

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鉄道関連製品の製造及び販売、不動産賃貸事業並びに環境事業等を含んでおります。

2 調整額は、以下のとおりであります。セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

(1)セグメント利益の調整額14,955千円には、固定資産の未実現損益の調整額7,365千円が含まれております。

(2)セグメント資産の調整額26,033,594千円には、セグメント間債権債務等消去等 1,918,602千円、各報告セグメントに配分していない全社資産27,952,197千円が含まれております。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	86,702,278	37,210,045	123,912,323	7,296,921	131,209,245		131,209,245
セグメント間の 内部売上高又は振替高		671,519	671,519	2,013,856	2,685,375	2,685,375	
計	86,702,278	37,881,564	124,583,842	9,310,777	133,894,620	2,685,375	131,209,245
セグメント利益	7,848,463	4,339,425	12,187,888	798,539	12,986,427	15,697	13,002,125
セグメント資産	67,689,172	25,936,213	93,625,386	9,371,091	102,996,477	24,842,638	127,839,116
その他の項目							
減価償却費	817,770	51,566	869,337	192,908	1,062,245		1,062,245
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,758,436	73,330	1,831,767	168,309	2,000,076		2,000,076

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鉄道関連製品の製造及び販売、不動産賃貸事業並びに環境事業等を含んでおります。
- 2 調整額は、以下のとおりであります。セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。
- (1)セグメント利益の調整額15,697千円には、固定資産の未実現損益の調整額7,971千円が含まれております。
- (2)セグメント資産の調整額24,842,638千円には、セグメント間債権債務等消去等 1,836,953千円、各報告セグメントに配分していない全社資産26,679,592千円が含まれております。
- 3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東日本旅客鉄道株式会社	101,061,948	土木事業、建築事業及びその他

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東日本旅客鉄道株式会社	101,511,411	土木事業、建築事業及びその他

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
法人主要株主	東日本旅客鉄道(株)	東京都渋谷区	200,000,000	運輸業	被所有直接10 間接 0	建設工事の請負 役員の兼任	完成工事高	99,831,970	完成工事未収入金	60,087,475
									未成工事受入金	128,804
							軌道材料等の購入	3,634,200	工事未払金	1,167,311

(注) 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。また、完成工事高の取引金額には工事進行基準による完成工事高を含んでおります。

取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件については、市場価格等を勘案し、価格交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

特記すべき事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
法人主要株主	東日本旅客鉄道(株)	東京都渋谷区	200,000,000	運輸業	被所有直接10 間接 0	建設工事の請負 役員の兼任	完成工事高	99,717,729	完成工事未収入金	68,096,121
							軌道材料等の購入		3,503,624	未成工事受入金
									工事未払金	1,518,890

(注) 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。また、完成工事高の取引金額には工事進行基準による完成工事高を含んでおります。

取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件については、市場価格等を勘案し、価格交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

特記すべき事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	1,979円28銭	2,218円19銭
1株当たり当期純利益	272円06銭	287円02銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	9,583,025	9,982,340
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	9,583,025	9,982,340
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,224	34,779

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	70,341,994	78,127,562
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	1,011,097	1,075,072
(うち非支配株主持分(千円))	(1,011,097)	(1,075,072)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	69,330,896	77,052,490
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	35,028	34,736

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、平成30年5月10日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項について決議し、実施いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

株主還元のためのさらなる充実を図るため

2. 取得の内容

- (1) 取得対象株式の種類 普通株式
- (2) 取得し得る株式の総数 350,000株(上限)
- (3) 株式の取得価額の総数 1,100,000,000円(上限)
- (4) 取得期間 平成30年5月16日から平成30年6月1日まで
- (5) 取得方法 信託方式による市場買付

3. 自己株式の取得結果

- (1) 取得した株式の総数 311,000株
- (2) 株式の取得価額の総数 1,099,961,500円
- (3) 取得期間 平成30年5月16日から平成30年5月30日まで

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	60,795	56,029		
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	85,479	29,450		平成31年～平成32年
その他の有利子負債				
合計	146,275	85,479		

(注) 1 「平均利率」については、当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりです。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	29,450			

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	21,331,895	49,788,838	80,413,636	131,209,245
税金等調整前四半期 (当期)純利益 (千円)	1,606,869	4,481,406	7,893,639	13,336,730
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,059,070	3,039,538	5,369,070	9,982,340
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	30.34	87.29	154.31	287.02

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり 四半期純利益 (円)	30.34	57.01	67.06	132.81

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	13,556,091	11,482,419
受取手形	2,214,677	120,126
電子記録債権	275,600	330
完成工事未収入金	3 71,236,918	79,438,994
売掛金	3 517,561	920,389
リース投資資産	139,154	84,302
未成工事支出金	1,726,934	1,407,305
未成業務支出金	115,464	220,364
商品及び製品	8,759	3,588
材料貯蔵品	914,026	1,075,330
前払費用	474,140	493,949
繰延税金資産	1,178,419	865,117
未収入金	525,918	344,480
立替金	2,158,055	1,095,067
その他	203,248	202,966
貸倒引当金	880	431
流動資産合計	95,244,089	97,754,300

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,574,697	8,048,531
減価償却累計額	4,931,969	5,085,134
建物（純額）	2,642,728	2,963,396
構築物	396,913	406,929
減価償却累計額	322,040	329,853
構築物（純額）	74,872	77,075
機械及び装置	1,033,146	1,023,375
減価償却累計額	657,530	669,738
機械及び装置（純額）	375,616	353,636
車両運搬具	6,082,774	6,567,580
減価償却累計額	4,987,094	5,263,214
車両運搬具（純額）	1,095,680	1,304,365
工具、器具及び備品	2,730,919	2,937,850
減価償却累計額	2,148,038	2,283,289
工具、器具及び備品（純額）	582,881	654,560
土地	1,397,986	1,395,375
リース資産	40,926	10,452
減価償却累計額	33,901	9,274
リース資産（純額）	7,024	1,177
建設仮勘定	259,692	239,791
有形固定資産合計	6,436,481	6,989,380
無形固定資産		
ソフトウェア	99,979	309,002
ソフトウェア仮勘定	105,670	12,770
その他	109,560	108,196
無形固定資産合計	315,210	429,969
投資その他の資産		
投資有価証券	11,779,735	12,463,447
関係会社株式	1,239,573	1,239,573
破産更生債権等	1,345,235	10,969
長期未収入金	464,301	405,295
前払年金費用	538,384	901,991
その他	318,863	344,806
貸倒引当金	1,841,771	448,940
投資その他の資産合計	13,844,322	14,917,142
固定資産合計	20,596,014	22,336,492
資産合計	115,840,103	120,090,793

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	2,233,280	2,359,785
電子記録債務	8,418,318	7,699,588
工事未払金	1 21,201,855	1 20,845,606
買掛金	211,766	251,181
リース債務	60,698	56,029
未払金	1,812,325	1,807,387
未払費用	804,028	1,029,478
未払法人税等	1,904,053	1,259,293
未払消費税等	1,915,708	1,937,797
未成工事受入金	1,171,008	507,333
預り金	5,622,925	6,187,321
完成工事補償引当金	593,207	438,693
工事損失引当金	719,997	119,725
賞与引当金	1,438,204	1,556,986
その他	633,173	73,089
流動負債合計	48,740,552	46,129,298
固定負債		
長期未払金	12,850	3,800
リース債務	85,479	29,450
長期預り敷金保証金	355,054	345,507
繰延税金負債	1,887,414	1,788,307
修繕引当金	369,256	445,341
資産除去債務	129,080	131,085
固定負債合計	2,839,135	2,743,492
負債合計	51,579,687	48,872,791
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,810,000	2,810,000
資本剰余金		
資本準備金	2,264,004	2,264,004
その他資本剰余金	86,631	86,631
資本剰余金合計	2,350,635	2,350,635
利益剰余金		
利益準備金	686,939	686,939
その他利益剰余金		
別途積立金	42,650,727	49,150,727
繰越利益剰余金	13,108,605	14,099,389
利益剰余金合計	56,446,272	63,937,055
自己株式	1,793,673	2,794,021
株主資本合計	59,813,234	66,303,669
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,447,181	4,914,332
評価・換算差額等合計	4,447,181	4,914,332
純資産合計	64,260,415	71,218,001
負債純資産合計	115,840,103	120,090,793

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高		
完成工事高	121,920,744	121,369,874
付帯事業売上高	2,103,785	2,295,554
売上高合計	124,024,530	123,665,429
売上原価		
完成工事原価	104,536,206	104,363,122
付帯事業売上原価	1,566,190	1,672,882
売上原価合計	106,102,397	106,036,005
売上総利益		
完成工事総利益	17,384,538	17,006,751
付帯事業総利益	537,595	622,671
売上総利益合計	17,922,133	17,629,423
販売費及び一般管理費		
役員報酬	251,224	273,477
従業員給料手当	2,522,565	2,608,232
賞与引当金繰入額	393,660	394,136
退職給付費用	98,440	94,494
法定福利費	495,792	498,962
福利厚生費	241,301	224,620
修繕維持費	29,057	44,922
事務用品費	170,525	155,101
通信交通費	233,132	246,913
動力用水光熱費	22,123	23,937
調査研究費	74,700	94,682
広告宣伝費	47,453	67,249
貸倒引当金戻入額	121,294	59,455
交際費	68,144	78,311
寄付金	4,333	11,493
地代家賃	353,605	354,566
減価償却費	98,389	92,168
租税公課	395,191	401,796
保険料	25,106	27,296
雑費	221,228	48,985
販売費及び一般管理費合計	5,624,681	5,681,890
営業利益	12,297,452	11,947,533

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業外収益		
受取利息	1,246	1,490
受取配当金	210,864	220,295
その他	37,493	33,256
営業外収益合計	249,604	255,042
営業外費用		
支払利息	607	617
支払手数料	6,834	3,260
その他	1,300	679
営業外費用合計	8,742	4,556
経常利益	12,538,314	12,198,019
特別利益		
固定資産売却益	1 2,200	1 92,835
ゴルフ会員権売却益	-	1,370
その他	0	0
特別利益合計	2,200	94,206
特別損失		
固定資産売却損	2 133	-
固定資産除却損	3 48,579	3 45,565
ゴルフ会員権評価損	15,664	7,482
その他	2,026	-
特別損失合計	66,403	53,047
税引前当期純利益	12,474,111	12,239,177
法人税、住民税及び事業税	3,697,956	2,934,636
法人税等調整額	107,135	425
法人税等合計	3,590,820	2,934,210
当期純利益	8,883,290	9,304,966

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		9,508,646	9.1	10,224,714	9.8
労務費		4,482,389	4.3	4,711,342	4.5
外注費		61,007,051	58.4	58,174,522	55.7
経費 (うち人件費)		29,538,119 (16,139,901)	28.2 (15.4)	31,252,542 (17,000,694)	30.0 (16.3)
計		104,536,206	100.0	104,363,122	100.0

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算であります。

【付帯事業売上原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
不動産事業費		216,070	13.8	198,489	11.9
その他事業費 (うち環境事業費)		1,350,120 (131,954)	86.2 (8.4)	1,474,393 (96,778)	88.1 (5.8)
付帯事業合計		1,566,190	100.0	1,672,882	100.0

(注) 原価計算の方法は、主に個別原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,810,000	2,264,004	86,631	2,350,635
当期変動額				
別途積立金の積立	-	-	-	-
剰余金の配当	-	-	-	-
当期純利益	-	-	-	-
自己株式の取得	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	2,810,000	2,264,004	86,631	2,350,635

	株主資本					
	利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		その他利益剰余金		利益剰余金合計		
		別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	686,939	37,150,727	11,315,097	49,152,763	903,202	53,410,197
当期変動額						
別途積立金の積立	-	5,500,000	5,500,000	-	-	-
剰余金の配当	-	-	1,589,782	1,589,782	-	1,589,782
当期純利益	-	-	8,883,290	8,883,290	-	8,883,290
自己株式の取得	-	-	-	-	890,471	890,471
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	5,500,000	1,793,508	7,293,508	890,471	6,403,036
当期末残高	686,939	42,650,727	13,108,605	56,446,272	1,793,673	59,813,234

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	4,166,931	4,166,931	57,577,128
当期変動額			
別途積立金の積立	-	-	-
剰余金の配当	-	-	1,589,782
当期純利益	-	-	8,883,290
自己株式の取得	-	-	890,471
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	280,250	280,250	280,250
当期変動額合計	280,250	280,250	6,683,287
当期末残高	4,447,181	4,447,181	64,260,415

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,810,000	2,264,004	86,631	2,350,635
当期変動額				
別途積立金の積立	-	-	-	-
剰余金の配当	-	-	-	-
当期純利益	-	-	-	-
自己株式の取得	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	2,810,000	2,264,004	86,631	2,350,635

	株主資本					
	利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	686,939	42,650,727	13,108,605	56,446,272	1,793,673	59,813,234
当期変動額						
別途積立金の積立	-	6,500,000	6,500,000	-	-	-
剰余金の配当	-	-	1,814,183	1,814,183	-	1,814,183
当期純利益	-	-	9,304,966	9,304,966	-	9,304,966
自己株式の取得	-	-	-	-	1,000,348	1,000,348
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	6,500,000	990,783	7,490,783	1,000,348	6,490,435
当期末残高	686,939	49,150,727	14,099,389	63,937,055	2,794,021	66,303,669

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	4,447,181	4,447,181	64,260,415
当期変動額			
別途積立金の積立	-	-	-
剰余金の配当	-	-	1,814,183
当期純利益	-	-	9,304,966
自己株式の取得	-	-	1,000,348
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	467,150	467,150	467,150
当期変動額合計	467,150	467,150	6,957,586
当期末残高	4,914,332	4,914,332	71,218,001

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 未成工事支出金

個別法による原価法

(2) 未成業務支出金

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(3) 商品及び製品

総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(4) 材料貯蔵品

移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 完成工事補償引当金

完成工事に係るかし担保の費用に備えるため、将来の見積補償額に基づいて計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当事業年度対応分を計上しております。

(4) 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(6) 修繕引当金

保有する線路保守用車両等の定期的な保守及び修繕の支出に備えるため、当該支出見込額のうち当事業年度末までに負担すべき額を計上しております。

5. 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、78,185,412千円であります。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 このうち関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
工事未払金	1,441,971千円	1,961,524千円

2 偶発債務(保証債務)

下記の金融機関等からの借入等に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(銀行借入金保証)		
従業員(住宅融資制度)	86,530千円	77,611千円

3 債権流動化による売掛債権譲渡高

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	8,500,125千円	千円

(損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械及び装置	956千円	千円
車両運搬具		95
工具、器具及び備品	1,243	1
土地		92,739
計	2,200	92,835

2 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
車両運搬具	133千円	千円

3 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	38,148千円	19,999千円
構築物	911	5,289
機械及び装置	108	0
車両運搬具	5,077	1,893
工具、器具及び備品	4,223	18,129
ソフトウェア	110	
その他	0	253
計	48,579	45,565

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	1,193,813	1,193,813
関連会社株式	45,760	45,760
計	1,239,573	1,239,573

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税等	108,676千円	77,692千円
完成工事補償引当金	183,063	134,327
工事損失引当金	221,781	36,659
賞与引当金	443,829	476,749
賞与に対する社会保険料	65,565	70,604
貸倒引当金繰入限度超過額	653,503	226,744
修繕引当金	113,399	136,363
その他	252,807	48,818
繰延税金資産 小計	2,042,626	1,207,960
評価性引当額	833,289	-
繰延税金資産 合計	1,209,337	1,207,960
繰延税金負債		
退職給付信託設定損益	30,775	30,775
資産除去債務に対応する除去費用	18,406	16,605
その他有価証券評価差額金	1,869,150	2,083,769
繰延税金負債 合計	1,918,332	2,131,150
繰延税金資産(負債)の純額	708,995	923,189

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.86 %	30.86 %
(調整)		
永久に損金に算入されない項目	0.32	0.45
永久に益金に算入されない項目	0.12	0.13
住民税均等割等	0.59	0.56
評価性引当額	0.29	6.86
所得拡大促進税制等の税額控除	2.42	1.86
その他	0.15	0.96
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.79	23.97

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、平成30年5月10日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項について決議し、実施いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

株主還元のさらなる充実を図るため

2. 取得の内容

- | | |
|----------------|-------------------------|
| (1) 取得対象株式の種類 | 普通株式 |
| (2) 取得し得る株式の総数 | 350,000株(上限) |
| (3) 株式の取得価額の総数 | 1,100,000,000円(上限) |
| (4) 取得期間 | 平成30年5月16日から平成30年6月1日まで |
| (5) 取得方法 | 信託方式による市場買付 |

3. 自己株式の取得結果

- | | |
|----------------|--------------------------|
| (1) 取得した株式の総数 | 311,000株 |
| (2) 株式の取得価額の総数 | 1,099,961,500円 |
| (3) 取得期間 | 平成30年5月16日から平成30年5月30日まで |

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資 有価証券	その他 有価証券		
	東日本旅客鉄道(株)	659,000	6,499,058
	日本電設工業(株)	672,631	1,415,888
	第一建設工業(株)	511,760	910,421
	(株)みずほフィナンシャルグループ	3,761,717	719,992
	名工建設(株)	524,658	600,733
	(株)千葉銀行	579,729	495,668
	(株)めぶきフィナンシャルグループ	720,529	294,696
	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	349,500	243,601
	鉄建建設(株)	67,315	205,647
	(株)三井住友フィナンシャルグループ	33,100	147,559
	(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	217,245	127,522
	首都圏新都市鉄道(株)	2,000	100,000
	セントラル警備保障(株)	30,000	89,790
	日本信号(株)	87,500	86,625
	日本坩堝(株)	200,000	67,400
	ブルドックソース(株)	30,360	67,399
	(株)大京	24,782	53,356
	(株)カワチ薬品	20,000	52,340
	(株)群馬銀行	77,036	46,529
(株)りそなホールディングス	66,158	37,180	
横浜高速鉄道(株)	600	30,000	
その他20銘柄	982,646	172,036	
計		9,618,266	12,463,447

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	7,574,697	525,500	51,667	8,048,531	5,085,134	187,072	2,963,396
構築物	396,913	17,529	7,513	406,929	329,853	10,854	77,075
機械及び装置	1,033,146	35,971	45,742	1,023,375	669,738	57,950	353,636
車両運搬具	6,082,774	791,793	306,987	6,567,580	5,263,214	308,735	1,304,365
工具、器具及び備品	2,730,919	413,041	206,110	2,937,850	2,283,289	331,308	654,560
土地	1,397,986	-	2,611	1,395,375	-	-	1,395,375
リース資産	40,926	-	30,474	10,452	9,274	5,846	1,177
建設仮勘定	259,692	40,773	60,674	239,791	-	-	239,791
有形固定資産計	19,517,057	1,824,610	711,781	20,629,885	13,640,505	901,769	6,989,380
無形固定資産							
ソフトウェア	1,240,152	332,353	31,633	1,540,872	1,231,869	68,224	309,002
ソフトウェア仮勘定	105,670	135,117	228,017	12,770	-	-	12,770
その他	161,062	-	300	160,762	52,565	1,110	108,196
無形固定資産計	1,506,884	467,471	259,951	1,714,404	1,284,435	69,335	429,969

(注) 当期増減額のうち、主なものは次のとおりであります。

車両運搬具の当期増加額の主なものは、工事中運搬車両等の取得535,151千円であります。

車両運搬具の当期減少額の主なものは、工事中運搬車両等の売却277,227千円であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	1,842,651	872	1,333,665	60,486	449,371
完成工事補償引当金	593,207	590,282	697,747	47,048	438,693
工事損失引当金	719,997	30,979	553,935	77,316	119,725
賞与引当金	1,438,204	1,556,986	1,438,204	-	1,556,986
修繕引当金	369,256	270,352	185,900	8,366	445,341

- (注) 1. 貸倒引当金の当期減少額「その他」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額880千円及び回収不能見込額の減少による取崩額59,606千円であります。
2. 完成工事補償引当金の当期減少額「その他」は、見積補償額と補償実績額との差額の戻入額であります。
3. 工事損失引当金の当期減少額「その他」は、工事損益改善による戻入等であります。
4. 修繕引当金の当期減少額「その他」は、支出見込額と実支出額との差額の戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	電子公告による。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法による。 公告掲載URL http://www.totetsu.co.jp (注)
株主に対する特典	なし

(注) 1 当社定款第8条では、単元未満株式を有する株主が、その有する単元未満株式の権利について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨規定しております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 - (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 - (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
 - (4) 単元未満株式の売渡し請求をすることができる権利
- 2 提出日現在においては、会社法第440条第4項の規定により公告は行いません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第74期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第75期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) 平成29年8月8日関東財務局長に提出。

第75期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日) 平成29年11月8日関東財務局長に提出。

第75期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日) 平成30年2月7日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づき臨時報告書

平成29年6月28日関東財務局長に提出。

(5) 自己株券買付状況報告書

平成29年7月13日、平成30年6月14日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月27日

東鉄工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 薊 和彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 阿部 與直 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東鉄工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東鉄工業株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、東鉄工業株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、東鉄工業株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月27日

東鉄工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 薊 和彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 阿部 與直 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東鉄工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第75期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東鉄工業株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。